

科 目 名			
経営学特講－ビジネスと文化 (旧経済学特講－ビジネスと文化) (旧経営・商学特講－ビジネスと文化)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	三 宅 亨

【講義概要・学習目標】

With the coming of the new century, the world is changing more rapidly than ever. Steadily advancing IT revolution is changing our society, industry and lifestyle. In addition, ongoing globalization requires communication and cooperation across cultures among other things. In this class a wide range of interesting topics will be taken up for those who aspire to be citizens of the world. The class will be taught by different faculty members each week, and conducted entirely in English. Students are encouraged to participate in lively discussions.

【講義計画】

Tentative List of Topics to Be Presented

1. Globalization and English
2. Japanese Agriculture
3. Deregulation of Economy & Corporate Restructuring in Japan
4. Japanese Retailing Industry
5. Steel Industry in Japan and the World
6. Insurance Business in Japan
7. Japanese Culture and Communication
8. Different Cultures

The final list will be distributed at the beginning of the spring semester.

【成績評価の方法】

Strict attendance is required. In place of the final examination, the students are asked to submit papers on several topics presented during the course.

【教科書】

No textbooks are used in this course. Instead, handouts will be provided in class.

【参考文献】

To be announced in class.

【備考】

インテグレーション科目
英語による授業科目

科 目 名			
経営管理論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	村 上 伸 一
02	秋学期集中	4	

【講義概要・学習目標】

経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し、1世紀余りの歴史をもっています。支配から、価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは、自由や機会平等といった基本的人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。

経営管理の場は組織ですから、経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は学校や病院など多様で膨大な組織から構成されていますが、本講義では、主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日米を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。

主に基盤的理論を学習しますが、学習を通して、実践的有用性のみならず、知的な面白さも実感し、自ら学ぶ意思を固めていくこと、これが当面の目標となります。

【講義計画】

オリエンテーション
イントロダクション

- 第1講 経営管理と経営管理者
 - 第2講 経営学と経営管理論
 - 第3講 経営管理と経営管理学説：実務と学際的応用社会科学
 - 第4講 近代経営管理論：意思決定論
 - 第5講 経営組織論
 - 第6講 戦略的経営管理論
 - 第7講 価値創造の経営管理論
- コンクルージョン

【成績評価の方法】

試験成績により評価します。ビデオや教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき、それを評価に加える可能性もありますので、毎回教科書を持参下さい。

【教科書】

村上伸一『価値創造の経営管理論（改訂三版）』創成社、2003年。

【参考文献】

片岡信之『日本経営学史序説』文眞堂、1990年。
眞野 脩『組織経済の解明』文眞堂、1978年。
村田晴夫『管理の哲学』文眞堂、1984年。
図書館で読むことができます。その他、適宜紹介します。

科 目 名			
経営工学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	明 石 吉 三

【講義概要・学習目標】

経営工学は経営諸問題に対する科学的、数学的接近法である。この分野は英国、米国の軍事研究を発端に生まれた。その後、IE (Industrial Engineering)、オペレーションズ・リサーチ、経営科学という研究分野が生み出され、様々な経営上の問題への科学的接近法として、大きく発展した。

本分野は数学的分析・計画手法、品質管理、在庫管理、意思決定論など広範囲である。本講義では、文科系諸君を前提に、経営工学的アプローチの意義、手法、特にモデル化法的一端を講義する。高度な数学的知識を必要としない内容にしたいと考えている。

【講義計画】

以下の内容を講義する。

- (1) 経営工学とは何か
- (2) 数理計画法の基本
 - a. 線形計画法
 - b. PERT手法：プロジェクト管理
 - c. 近年の話題：ニューロ・コンピューティング
遺伝的アルゴリズム
- (3) 在庫管理論
- (4) 品質管理論
- (5) その他：意思決定論、予測理論

【成績評価の方法】

レポートおよび試験による総合評価。
出席の確認は適宜実施する。

【教科書】

特になし。

【参考文献】

別途指示する。

科 目 名			
経営財務論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	今 木 秀 和

【講義概要・学習目標】

企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人、物、金、情報等の資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業内部から調達する。調達した資本は、目的や使途に合わせて資産の形態で運用される。運用の結果は、損益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分が、この講義の主要な問題領域である。

経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標である。

【講義計画】

- 第1部 財務の基礎
- 第2部 キャッシュフローと資金管理
- 第3部 投資決定と企業価値
- 第4部 資本調達と配当政策
- 第5部 経営戦略と財務

【成績評価の方法】

成績評価は、学期末テストを基本とする。経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標であるので、基礎知識の習得が、どの程度できているかをテストによって判定することを基本とする。

途中で学習を整理し、理解を深めるために数回レポートの提出を求める。また毎回出席をとる予定である。テストの結果に、レポート、出席などを加味して評価する。

【教科書】

教材として次のものを使う。

榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄著

「現代の財務管理」 有斐閣

【参考文献】

- 若杉啓明著 「入門ファイナンス」 中央経済社
 坂本和夫編 「テキスト財務管理論」 中央経済社
 後藤幸男他著 「新経営財務論講義」 中央経済社
 井出正介他著 「経営財務入門」 日本経済新聞社
 米澤康博他著 「新しい企業金融」 有斐閣
 村松司叙著 「財務管理入門」 同文館
 杉井弘和編著 「企業財務論」 税務経理協会

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
経営史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	長谷川 彰

【講義概要・学習目標】

「経営史学」という学問は、比較的新しい領域に属する学問分野である。近年におけるこの分野の発展には目を見張るものがある。そこで本年度の講義は、まず経営史学の成立、発展の歴史的過程を明らかにし、さらに、その過程で生まれた企業者史学などの学説史的検討をおこないたい。

次に、具体的事例の検討に入りたい。その場を日本に求め、江戸時代以降の経営史を明らかにしていきたい。つまり、前近代社会から近代社会における経営活動を中心とした歴史的過程の分析が考察の対象となる。

【講義計画】

<春学期>

1. 経営史学の成立と発展
2. 経営史学の展開
3. 企業者史学の台頭
4. 前近代社会の経営史
5. 近代社会の経営史
6. 現代社会の経営史

【成績評価の方法】

試験を中心に行う。

【教科書】

藤田貞一郎、他著「日本商業史」有斐閣、1978年

【参考文献】

随時指定する。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
経営情報技術論 (旧情報システム概論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	村 山 博
02	秋学期集中	4	

【講義概要・学習目標】

多機能携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。

本講義は、就職や実際の会社での仕事を念頭に置き、社会人として必要な情報技術の基礎の習得を目的とし、経営情報技術の活用事例を通して、現代ビジネスの特徴と問題点を浮き彫りにする。

【講義計画】

1. 高度情報社会の現状と未来の生活
2. さまざまな情報と社会の変化
3. コンピュータの歴史
4. コンピュータによる情報表現：文字、映像、動画、マルチメディアの表現、
5. コンピュータのハードウェア：ディスプレイ、プリンター、記憶装置、
6. ソフトウェア：オペレーティング・システム、応用ソフトウェア、
7. 通信の仕組みと各種プロトコル
8. 通信ネットワークシステム：インターネット、ブロードバンド、
9. 経営情報技術の活用例（1）：ユビキタス社会における情報活用、
10. 経営情報技術の活用例（2）：新しいビジネスの誕生、
11. 経営情報技術の活用例（3）：電機会社、自動車会社、等
12. 就職や会社の実務に必要な経営情報技術に関する問題とその対策

【成績評価の方法】

授業態度、期末試験により、総合的に判断して評価する。

【教科書】

村山博「経営情報技術の活用」西日本法規出版 2005年

【参考文献】

その都度指示する。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
経営情報基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	深 谷 清 之
02	秋学期	2	
03	秋学期	2	
04	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

経営学部における経営情報関連の講義は、以下の4つである。

- ・”情報技術”について学習する「経営情報技術論」
- ・”情報システム”について学習する「経営情報システム論」
- ・”情報化と組織”について学習する「情報化組織論」
- ・”情報利用と計画”について学習する「経営工学」

この講義は、上の4つの講義のイントロダクションとして位置づけられる。それぞれの基礎的内容を学習する。また、上記の内容に加え、4つの講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。

この講義の目的は、経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータ・システム、IT（情報技術）、モデル化の技術が不可欠であることを認識してもらい、より広くは、さまざまな意思決定の局面において、論理的思考、ないしはシステム思考が大きな助けとなることを理解してもらうことである。

【講義計画】

- ①オリエンテーション
- ②数学基礎
- ③「経営情報技術論」の基礎
- ④「経営情報システム論」の基礎
- ⑤「情報化組織論」の基礎
- ⑥「経営工学」の基礎
- ⑦まとめ

【成績評価の方法】

レポートおよび期末試験

【教科書】

プリント配布

【参考文献】

必要に応じて指示する。

科 目 名			
経営情報システム論 (旧経営情報論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	深 谷 清 之

【講義概要・学習目標】

1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証、組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。

本講義では、まず、そのような経営情報システムとは何かを概観したあと、情報システムを効果的に導入したいいくつかの先進的な事例を紹介し、その効果はどのようなものかについてケーススタディを通じて講述する。

次に、経営情報システムを理解するために必要な最小限の基本的な情報技術を紹介した後、組織における情報管理、組織と情報システムの関係、業務形態と情報システムの関係、経営と情報システムの関係などを学ぶ。

【講義計画】

- ・経営情報システムに関する概論
- ・企業における先進的な情報システム事例
- ・経営情報システムにおける基本情報技術と情報管理
- ・組織と情報システム
- ・業務形態と情報システム
- ・まとめ

【成績評価の方法】

授業の出席状況、レポート及び期末試験で総合的に評価する。

【教科書】

薦田 憲久、矢島 敬士：『企業情報システム入門』（コロナ社1999年）

科 目 名			
経営分析			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	河 合 隆 治

【講義概要・学習目標】

経営分析は、どの会社が強いのか、もしくは弱いのかについて、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書といった会計情報を利用して分析する分野です。

このような分析は、会計や金融を専門とする職業に就く場合だけではなく、みなさんがどの会社に就職しようか迷った時、株式を買う時、会社の状況を財務的に把握する時に役立ちます。

本講義では、経営分析の基本的な考え方や計算方法を理解することを目的とします。経営分析ができるようになるためには、基本的な考え方を理解するだけではなく、実際に分析できる必要がありますので、講義の途中で受講生のみなさんに簡単な計算をして頂きます。本講義を修了することにより、「会社四季報」などに書かれている会社に関するデータの意味がわかるようになり、証券アナリスト試験を受けるための基礎的な力がつくことになります。

本講義を受ける上で、経営学部必修科目である「商業簿記」の知識を習得済み、もしくは並行して習得していることが望ましいです。しかし、本講義を理解する上で必要な簿記や会計学の知識は、必要に応じて簡潔に説明しますので、これらの知識を持っていなくても経営分析を理解することは可能です。

【講義計画】

本講義は、大まかに以下のように進めます。

- 1 経営分析とは何か
- 2 貸借対照表で何がわかるか
- 3 損益計算書で何がわかるか
- 4 会社の財務安定性はどうか
- 5 会社の収益力は十分か
- 6 会社の活性度はどうか
- 7 会社の発展性はあるのか
- 8 資金繰りは十分か
- 9 会社に勤める従業員の能力はどうか
- 10 総合的に会社の状態を分析する

講義の進度は講義の途中で行う計算演習や受講者の理解度をみて調整します。計算演習を行いますので、受講者は毎週計算機(電卓)を持参してください。

講義計画や成績評価方法などの詳細については初回の講義で説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。

【成績評価の方法】

期末試験結果を中心とし、出席、発表を加味して評価を行います(昨年度実績：試験100点、出席10点、発表10点)

※講義受講者の様子を考慮して得点配分を決めるため、昨年同様のウエイトで評価しません

【教科書】

森田松太郎『ビジネス・ゼミナール：経営分析入門』日本経済新聞社、2002年。

【参考文献】

・桜井久勝『財務諸表分析第二版』中央経済社、2003年。

- ・ほぼ毎回必要な補助資料(プリント)を配布します。分量が多いので、ファイルを用意してください。
- ・その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

科 目 名			
経営労務論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

21世紀に入り、厳しい経済環境のもとで日本企業は様々な改革に取り組んでいます。中でも、経営労務に関わる諸制度の改革が盛んです。経営労務とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの3要素のうち、ヒトに関わる管理をいいます。企業経営を動かすのはヒトであり、その働き如何が経営を左右します。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした経営労務のあり方もその転換が求められています。本講義では、現代の日本企業が経営労務において直面している諸問題を可能な限り多面的に考察し、その展望を試みたいと思います。

現代の日本企業が直面している経営労務の主要な問題は何かを理解すること、それが当面の学習目標となります。

【講義計画】

テキストに従って、概ねその順序で講義を進めます。

1. 経営労務論とは
2. 企業経営と経営労務
3. 働く動機－モチベーション論
4. 人を動かす－リーダーシップ論
5. 職務設計
6. 組織設計
7. 雇用管理
8. キャリア開発
9. 人事考課制度
10. 専門職制度
11. 賃金制度
12. 福利厚生制度
13. 労使関係
14. 女性労働者
15. 高齢労働者
16. 研究開発技術者

【成績評価の方法】

①期末試験の成績、②講義ノートのとまとめ方、③レポートおよび講義中の小テストの成績、を総合して評価します。

【教科書】

奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社、2003年。

【参考文献】

吉田和夫・大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』(三訂版) 同文館、2003年。

奥林康司・平野光俊編著『フラット型組織の人事制度』中央経済社、2004年。

その他、講義中に適宜指示します。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
景気循環論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	滝 田 和 夫

【講義概要・学習目標】

バブル崩壊から十数年、全体としては停滞的・慢性不況的に推移してきた日本経済もようやく停滞を脱し、この数年順調な回復が続いている。しかし、この景気回復も早くも「踊り場」を迎え、再び下降する懸念が強まってきている。学生諸君は、自分の就職がどうなるのか不安に思うと同時に、なぜ資本主義経済において好況・不況の景気循環が存在するのか、疑問に思っていることだろう。この講義では、景気循環に関する標準的・基本的な理論を理解することに主眼を置き、併せてその問題点を検討していきたい。なお、景気循環論はマクロ経済学の応用の側面をもつので、経済原論ⅠA-2を修得済みであるか、またはこの講義と並行して履修されることが望ましい。

【講義計画】

1. 景気循環とは何か
2. 景気循環論の基礎
3. 乗数・加速度モデル
4. 不規則衝撃の理論
5. 非線型景気循環論
6. 均衡景気循環論

【成績評価の方法】

試験の成績による。

【教科書】

指定しないが、参考文献Ⅰの第Ⅱ部が特に参考になる。また、随時プリントを配布する。

【参考文献】

1. 浅利一郎著『IT時代のマクロ経済学』（実教出版社）
2. 置塩信雄編著『景気循環』（青木書店）
3. 長島誠一著『景気循環論』（青木書店）
4. J. R. ヒックス（著）古谷弘（訳）『景気循環論』（岩波書店）
5. M. カレツキ（著）宮崎義一・伊藤光晴（訳）『経済変動の理論』（新評論）

科 目 名			
経済英語Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	和 田 肇

【講義概要・学習目標】

ここ数年前より、日本企業の中には、その取引先の海外進出に合わせて、従来は海外取引とは全く縁がなかったのにも関わらず、海外へ生産拠点を移管する先が急増しています。又、日本国内市場の閉塞感から、海外に新規市場を求めたり、委託加工貿易を行っているところもあります。今後、人、物、金、サービスの交流が益々活発になり、ビジネス活動がグローバル化、高度化してきます。

学生諸君にとって、就職後は、国際部門で活躍する機会が増えてくることでしょう。将来に備えて、英語での交渉能力と、英語での読み書き能力、広い知識と教養を高めておく必要があります。これらの目的を達成するツールとして、英字新聞が最適です。このクラスでは、英字新聞を通じ日本、世界経済の事象を学びます。記事の解説と同時に、文法、同義語、反意語にもふれていきます。日本のマスメディアとはやや異なる視点で世界を俯瞰しましょう。これらの幅広い知識と英語能力は、将来必ず役立つものと信じます。今年より、教材を使って貿易実務についても触れてみることにしました。

私が金融マンとして海外駐在中に学んだ米国、アジアでの経験が、将来国際部門で活躍したいと志しておられる学生さん達のお役に立てば幸いです。

英語と日本語の新聞を読むのが好きな人の参加を期待します。但し、語学学習には、根気と知的好奇心が必要です。

【講義計画】

（前期）

1. 日本企業の海外取引概論
2. 輸出取引の実務（その1）
3. 輸出取引の実務（その2）
4. 輸入取引の実務
5. 送金取引の実務
6. 為替レート
7. 金利
8. 日本の景気動向
9. 世界の景気動向
10. 時事問題
11. 時事問題
12. 時事問題

（後期）

13. ベンチャービジネス
14. 外食産業
15. 自動車産業
16. 証券
17. 銀行
18. エネルギー産業
19. 環境問題
20. マーケティング
21. リストラクチャリング
22. 時事問題
23. 時事問題
24. 時事問題

（注）年間を通じ、時機を得た時事問題を織り込みます。

【成績評価の方法】

前期、後期のレポート内容と出席状況に基づき、総合的に評価を行います。

【教科書】

不要（当方にてプリントします）

【参考文献】

英文記事の読み方 日本経済新聞社編／日経文庫
経済の英語 寺澤浩二／研究社出版
新コンサイス時事英語辞典 磯部薫／三省堂

【備考】

<98～01生> 経済学部生対象

科 目 名			
経済開発論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	望 月 和 彦

【講義概要・学習目標】

テーマ：経済開発の歴史と現状

イラクやアフガニスタンの現状を見れば、貧困がテロの温床となっていることが分かる。テロを撲滅するためには、貧困の解消、即ち経済発展を促進しなければならないのであり、その意味で開発途上国の経済発展問題は、すでに高い生活水準を達成した先進諸国にとっても他人事ではない。

それではどうすれば経済発展・経済開発に成功することができるのだろうか。それは経済発展の歴史に学ぶしかない。そこで産業革命以後、20世紀初めまでの経済発展の歴史の説明を行う。

また経済発展は私たちに豊かな生活をもたらすと同時に色々な弊害も引き起こしている。その中でもっとも深刻と思われているのは環境問題であり、資源問題であり、人口問題である。本講ではこれらの問題を取り上げていく。中心となるのは資源・環境問題であり、これらの問題が果たして経済成長をストップさせるかどうかを考えていく。

最後に経済発展に必要な社会条件について論じる。

本講では、色々な問題に対して全く異なる接近法をとったり、世間一般に信じられていることとは全く正反対の議論が行われることがある。そのため授業に出ることのできない学生諸君が単位を取ることは大変難しい。受講生には、柔軟な思考、冷静な判断力が求められる。

過年度までの講義の内容については、4月初めに2003年度に配布したプリントを自宅のホームページ上に掲載する予定。

ホームページアドレス：<http://www.cg-s.bias.nc.jp/~ponchan/>

【講義計画】

第一部 経済発展の歴史的意義

- 第1章 成長と停滞 どちらが当たり前？
- 第2章 進歩思想vs終末思想
- 第3章 産業革命の意義
- 第4章 第一次世界大戦
- 第5章 大量生産方式の成立

第二部 環境問題と成長の限界

- 第1章 現代の終末思想としての環境問題
- 第2章 今日の環境問題の類型
- 第3章 オゾン層破壊
- 第4章 地球温暖化
- 第5章 生物種の多様性、砂漠化、森林破壊
- 第6章 廃棄物問題

第三部 資源問題

- 第1章 資源と経済成長
- 第2章 資源問題の真相
- 第3章 エントロピーの妥当性
- 第4章 経済成長に対する真の制約

第四部 経済発展の要因

- 第1章 経済発展の要因についてのこれまでの議論
- 第2章 経済発展の要因としての秩序
- 第3章 秩序の源泉
- 第4章 まとめ

【成績評価の方法】

期末試験の成績のみによって評価する。

【教科書】

なし

【参考文献】

第一回の講義で配布する講義予定表で指示する。

科 目 名			
経済学 (旧経済学概論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	伊代田 光 彦

【講義概要・学習目標】

この講義は、経済学を専門としない者を対象に行う経済学の概論である。経済学は一体どんな学問だろうか。どんな考え方(理論)が存在するのだろうか。経済学を学ぶにはどんな姿勢が必要なのだろうか。経済社会が制度として機能していくために必要不可欠な条件はなんだろうか。逆に言えば、この基本的条件が満たされなければ、制度は永続せず崩壊してしまうだろう。このような問いに対して答えるのが、経済学への導入部分である。

ついで、担当者が長年講義している専門分野、マクロ経済学のエッセンスをわかりやすく講義する。マクロ経済学は、所得(賃金、利潤など)、経済成長、失業、物価、国際貿易などのように、われわれの日々の生活に密接な関わりを持つ広くかつ奥の深い学問分野である。ここでは、一市民として必要な経済学知識である国民所得、失業、所得分配、年金、国際経済などについて講義する。

可能なかぎり、現実の問題にそくして、受講者の理解度を見ながら講義を進めていくつもりである。願いは受講者に経済学を学ぶ楽しみの一端を伝えることである。

【講義計画】

経済学への導入

- 1 経済学とは
- 2 経済学の体系と主要経済学派
- 3 経済社会の特徴

マクロ経済学

- 1 国民所得の概念
- 2 国民所得の決定
- 3 貨幣の分析
- 4 マクロ経済政策
- 5 失業とデフレ
- 6 所得分配と年金
- 7 国際貿易

【成績評価の方法】

学期末試験とレポート(2回)等により総合的に評価する。

【教科書】

伊代田光彦著「マクロ経済学」(法律文化社、2003年)

【参考文献】

必要に応じて講義の中で指示する。

科 目 名			
経済学 (旧経済学概論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4	桂 昭 政

【講義概要・学習目標】

本講義では経済理論を学ぶというよりも身近な日本経済の理解を深めることを目的とする。具体的には（イ）90年代以降のグローバル市場経済の浸透とともに日本経済はこれまでとは違った180度の転換を余儀なくされていることの理解を深めることであり、（ロ）日本経済の諸側面、例えば産業、労働、財政、金融、国際経済等の分野における現状についての理解を深めることである。その結果として受講生と日本経済の距離が縮小し、経済についての関心が高まるようになればと思っている。

【講義計画】

テキストの構成は下記のごとくである。

- I. 経済発展の軌跡
- II. 人口・国土・国富
- III. 食生活と第1次産業
- IV. 変貌する第2次産業・第3次産業
- V. IT革命と情報化社会
- VI. 雇用・労働
- VII. 金融・資本市場
- VIII. 財政
- IX. 国際収支
- X. 国民生活
- XI. 日本経済の展望

【成績評価の方法】

期末テストをベースに課題レポートを加味して評価する。

【教科書】

宮崎勇・本庄真著『日本経済図説第3版』（岩波新書）

【参考文献】

授業中に指示する。

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
経済学 (旧経済学概論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4	鈴 木 健

【講義概要・学習目標】

本講義の目標は、第一に、我々の生活する舞台である資本主義経済の仕組みについて基本的な理解を獲得し、第二に、その理解にもとづいて現代経済に特徴的な経済現象の意味について考える訓練を行なうことにある。

第一の目標に関わって言えば、資本主義経済は市場経済を基礎として成立したが、その利潤獲得を目的とするがゆえに生産は無際限に拡張する傾向をもつこと、にも関わらず、市場が受容する能力には限界があり、それゆえに資本主義経済は過剰生産とそれを調整する恐慌を回避することはできない経済の仕組みであること、このことが中心的なテーマとなる。

第二の目標に関して言うと、90年代長期不況のもとにある日本経済をとりあげ、そこに特徴的と考えられるいくつかの経済現象を取り出し、それについて考えることが中心的なテーマとなる。

【講義計画】

第1回の講義の際に、授業計画全体について解説する。

【成績評価の方法】

期間中に実施する10回の小テストの総得点によって評価する。

【教科書】

岸本重陳『経済学100の話』岩波書店

【参考文献】

その都度、指示する。

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
経済学 (旧経済学概論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期集中	4	西 川 憲 二

【講義概要・学習目標】

日常生活の中で、私達は日々いろいろなことを選択し決定をしている。このとき「お金」が大きな決定要因になっていることが少なくない。このことは、私たちが「経済学」に取り込まれていることを意味している。言い換えると、経済学とは、我々の選択を経済的側面から解き明かしていく学問である。そればかりではなく、経済学は、企業や国家の選択や行動を説明する。そこで、経済学から、個人・企業・国家を眺めることによって、私たちの生活と社会がどのように機能しているのか、これからの日本経済はどうなっていくのか考えてみたいと思う。

【講義計画】

日本経済と世界経済の現状
マクロ経済学
貿易と為替レート
ミクロ経済学

【成績評価の方法】

出席、学期末テスト

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
経済学 (旧経済学概論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期集中	4	藤 田 香

【講義概要・学習目標】

講義概要：この講義は、経済学をこれから学ぼう、経済学が良く理解できない、あるいは数式がたくさん登場して記号や文字に親しめないという初学者を対象にしています。このため、高度な理論や最新の研究紹介について学ぼうとする人には、より高度な専門科目の履修をすすめます。本講義では、経済学の世界にある「常識」や「前提」について解説し、「経済学の基本的な考え方」をわかりやすい言葉に置き換え、講義をすすめる予定です。

学習目標：経済学の本質的な部分を理解すること。

【講義計画】

- 1 経済と経済学
- 2 経済学とは何か
- 3 知っておきたい経済学原理
- 4 知っておきたいキーワード
- 5 ミクロ経済学とマクロ経済学
- 6 ミクロ経済学（概論）
- 7 マクロ経済学（概論）

【成績評価の方法】

試験による評価。

- 1 定期試験
- 2 中間試験あるいは確認テスト

【教科書】

なし

【参考文献】

より学習を深めたい受講生のために
N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ マクロ編』（東洋経済新報社）
N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』（東洋経済新報社）

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	望 月 和 彦

【講義概要・学習目標】

本講は、近代経済学の入門講義である。本来、経済学は経験科学であり、現実の問題を考えるためのものである。そこで本講でも、現在の日本社会が抱えている問題を取り上げ、それを具体的に分析する過程で近代経済学の考え方、理論的基礎を理解できるように説明していく。

バブル崩壊以後、日本人はすっかり自信をなくし、これからどのような方向に社会を持って行けばいいのか全くわからない状態になっている。これまで確定しているように見えた「人生のルール」が突然消滅し、これからどのようなキャリア（職業）を積み上げていけばいいのか、途方に暮れている。

他方で、解決を迫られている問題は山積しており、中には年金問題のように痛みを避けることができないような問題もある。

本講で取り上げるテーマは、「ニート」と呼ばれる若年無業者問題をはじめとする労働問題、バブル崩壊以後の財政・金融政策、年金・保険の将来である。これらの問題は皆さんにとってかなり深刻な問題であると思われる。身近な問題を考えることで、経済学を学んでいってほしい。

講義の詳しい内容については、過去に配布したプリントを自宅ホームページに公開する。

ホームページアドレス：<http://www.cg-s.bias.ne.jp/~ponchan/>

ただし、講義計画はあくまでも暫定的なもので、変更される可能性があることをご承知おきいただきたい。

【講義計画】

第一部 激変する労働市場

- 第1章 大学生の就職事情
- 第2章 日本的労働慣行の変質
- 第3章 少子高齢化の衝撃

第二部 財政金融問題

- 第1章 バブルの生成と崩壊
- 第2章 財政と金融の役割
- 第3章 マクロ経済入門
- 第4章 財政・金融政策は有効か

第三部 年金と医療の経済学

- 第1章 日本の年金制度・医療保険制度
- 第2章 年金・保険は信用できるか

第四部 日本社会の将来像 いったい何が起ころのか？

【成績評価の方法】

中間および期末試験、小テスト、レポートで評価する

【教科書】

使用しない

【参考文献】

最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目としてE・J生対象外

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4	矢 根 眞 二

【講義概要・学習目標】

初めて経済学を学ぶ人のための入門経済学の講義です。経済学の基本は必修のミクロ経済学（経済原論IA-1）とマクロ経済学（経済原論IA-2）ですから、ミクロにもマクロにも共通する考え方と分析道具の基礎を学習します。

とりわけ最近多用される「ゲーム理論」にも焦点を当てるのが本講義の特徴です。というのもゲームを基礎とする「戦略的思考」は、最近の経済学はもちろん、政治学・法学・経営学・社会学にも広く使われ、現代の常識となりつつあるからです。

ただし基礎やゲームという言葉にもかかわらず、経済学は非常に緻密な論理体系ですから、受講者は丹念に教科書を読み、自ら練習問題を解く自己管理能力が必要です。まったく予備知識がなくても読みやすい教科書を指定していますから、疑い深く考えながら読んで下さい。講義では、その中心的なトピックのみをグラフや式で解説し、そうした経済学的な考え方を身につけることが目標です。

【講義計画】

★初回の授業では講義概要の説明をしますから、このページを持参して下さい。

●第1部「モデル思考と分析道具」の基礎

以下の2つのパートを学ぶためのウォーミングアップです。現実の経済動向を知るための「日経新聞」の読み方や、その現実をモデルを通じて理解するというモデル思考を学びます。実際に簡単な数式やグラフを使って、経済学の代表的なモデルも学習します。

●第2部「経済学の基本的な考え方」の基礎

ロバーツの教科書の主人公である高校教師サムの主張にスポットライトを当て、第1部で学習した競争市場の動向や人間行動の原理（競争市場の部分均衡モデルと主体均衡モデル）の使い方を学習します。具体的には、「どうして石油は枯渇しないのか？」や「なぜシートベルトやエアバッグ規制に反対するのか？」といったトピックを順次取り上げます。

●第3部「戦略的な新しい枠組」の基礎

ミラーの教科書に従って、自分の利益が自分の行動だけでなく他人の行動にも影響される状況（戦略的依存関係）の考え方（非協力ゲーム理論）の基礎を学習します。教科書の練習問題を自分で解き、ライバルに直面する自分自身の問題に適用できるようになることが目標です。

★以上の講義内容の項目詳細は開講時の教員サイトを参照して下さい。

<http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/intr.htm>

【成績評価の方法】

●試験得点合計の6割以上が合格ラインの原則です。

●ただし授業中に課題を課した場合や貢献度の高い質疑があった場合には加点を行うこともあります。

●試験終了後のレポート等の予定はありません。

●追試験は定期試験の問題や形式とは大きく異なることがあります。

【教科書】

★高校生でも読めそうな教科書を指定しますが、手堅い日本の高校生用のテキスト（たとえば小塩隆士(2002)『高校生のための経済学入門』ちくま新書 700）と比べると、考える面白さは豊かでしょうから、疑うことを楽しみながら読んで下さい。

●ラッセル・ロバーツ(2003)『インビジブルハート～恋におちた経済学者～』日本評論社 1600 →高校教師サムを主人公とする恋愛小説仕立てなので気軽に読めます。恋人ローラの正論？とサムの奇論？のディベートが法学と経済学の対立として描かれています。●ジェームズ・ミラー(2004)『仕事に使えるゲーム理論』阪急コミュニケーションズ 2600 →やはり奇論？に思える例を豊富に含む読み物風なので、ゲーム理論のテキストの中では最も気軽に読める一冊です。ただし練習問題はかなりスタンダードなので、きっちり理解できるようにしましょう。

【参考文献】

★ミクロやマクロそしてゲームにもグラフ・記号・数式はつきも

のですから、特に経済学部生は中高の数学の復習を兼ねた「経済学のための数学入門」の履修こそ第1の参考文献でしょう。そのうえで余裕があるなら、講義でもしばしば言及する以下のようなテキストにチャレンジすれば効果的です。

●伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』日本評論社 3000 → 第0-4章が講義の第2部の詳しい解説にほぼ相当しますが、標準的なテキストなので机の上で読む必要があるでしょう。

●清水竹治(2004)『ゲーム理論：最強のトレーニング』日本文芸社 1300 → 最強というより手堅なクイズ形式で、講義の第3部のゲーム理論の基本概念に馴染むことができます。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4	麻 生 憲 一

【講義概要・学習目標】

経済学には特殊な専門用語が非常に多く、そのうえ数式や統計データなども含まれているため経済学を勉強したことのない門外漢にとって、その理解は至難の業である。また日頃、新聞や雑誌などで財政・金融政策の記事は目にはするけれど、その内容を正確に理解できている人は案外と少ない。しかし、多少なりとも経済学的な考え方や専門用語を理解しているだけで経済記事の読み方や現実経済の見方が変わってくるのも事実である。その意味で、経済学は生きた学問としての醍醐味を与えてくれる。

本講義は、初めて経済学を学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な考え方、専門用語、図表ならびに統計データの見方などを概説する。

春学期ではミクロ経済学を、秋学期ではマクロ経済学を中心として講義を進めていく。

【講義計画】

以下の内容を適宜選択して説明する。

経済学の基本概念
 市場の需要と供給
 家計、企業の最適行動
 市場均衡
 市場の失敗
 国民経済計算
 家計の消費行動
 企業の投資行動
 貨幣の機能
 財政・金融政策
 失業と不況
 貿易と国際収支

【成績評価の方法】

定期試験とレポートにより評価する。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリント配布。

【参考文献】

授業中にその都度指示する。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、E・J生対象外

科 目 名			
経済学基礎理論 A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期集中	4	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

この講義で経済学の基礎概念が提供される。その素材として、内閣府が毎年発行している『経済財政白書』を利用する。これは、発行される前年の日本経済の動向やトピックが調べられたものである。すなわち今回は、2004年中の日本経済の動向やトピックを講義していくことになる。ただし現時点で白書の最新版が出ていないから、どのような内容になるか見当もつかないことをお断りしておく。

それと同時に、白書に書かれている内容の背後に隠れている理屈（＝理論という）についても積極的に触れていくことにする。その際、みんなが嫌うであろう「数学」が利用される（割合としては、全講義の4割程度の利用を目標としている）。ただし極端に高度な数学をそのまま利用するのではなく、ある程度受講生の「喉越し」をよくするための加工は施す。その意味では高校初等程度の数学知識で対応できるはずである。この点は、心に留め置きいただきたい。

この講義を通じて、およそあらゆる学問において「基礎」と名のつくものが一番難しい、すなわち「基礎＝簡単」なのではない事をご理解していただきたい。

【講義計画】

開講時点で平成17年版の『経済財政白書』が出ていたら、それをもとに講義計画を立てる。さもなくば、最新版が出るまで、平成16年版の白書の内容を解説していきたい。

【成績評価の方法】

- ①講義時間中の出席は一切とらない。
- ②講義時間中、4～8回をめぐりに「小テスト」を行う（全ての参照可）。
- ③講義期間中に「中間試験」および「期末試験」を行う（全ての参照不可）。
- ④「小テスト」「中間試験」「期末試験」を総合して単位認定を行う。

【教科書】

基本的には使用せず、適宜講義資料（レジュメ）を配布する。

【参考文献】

『経済財政白書』（平成17年版）：今秋発売されるはず
それ以外は、適宜指示していく。

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、E・J生対象外

科 目 名			
経済学基礎理論 B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	大 澤 健

【講義概要・学習目標】

私たちが暮らしている社会は「市場経済」とか「資本主義社会」と呼ばれる社会です。「市場」「貨幣」「商品」といった言葉は日常的に使われる言葉ですが、改めて説明するとなるとなかなか難しいものです。

「経済学基礎理論B」では、この市場経済についての基礎的な知識と、経済学というものの理論的な考え方の習得を目指しています。「市場」「貨幣」「資本」といった基礎的な用語の意味を解説しながら、それらがどのように動くことでこの社会を作っているのかを考えていきます。

【講義計画】

<春学期>

1. 市場と商品
 - ・市場とは何か
 - ・市場の原理と特性
 - ・商品とは何か
2. 貨幣または商品流通
 - ・貨幣とは何か
 - ・貨幣の諸機能
 - ・貨幣と通貨制度

<秋学期>

3. 資本
 - ・資本とは何か
 - ・資本主義的生産の諸特徴

【成績評価の方法】

秋学期末に行う試験の成績によって評価する。春学期中にレポートの提出を課すが、これを「加点要素」として考慮する。

【教科書】

柴田信也編著「政治経済学の原理と展開」（創風社）

【参考文献】

カール・マルクス著「資本論」

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4	松 尾 純

【講義概要・学習目標】

この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みとそれを構成する基礎的な諸概念を理解することを目的としています。資本主義経済の基礎的な仕組みとその諸概念を理解するためには、社会を経済的側面だけから見るだけでは不十分です。この社会を構成している政治的・社会的・制度的な諸側面をも含めて総合的に分析しなければなりません。

この目的を果たすために、この講義では、「経済学の歴史」（重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等）と「経済の歴史」を概観します。この作業を通じて、資本主義経済を、政治的・社会的・制度的な諸側面から包括的に理解する方法を身につけることができるように配慮しつつ講義を進めていきます。

なお、本講義は、直接的には、本学カリキュラムの「経済原論I B」（＝マルクス経済学）の基礎を解説することを目的とします。

【講義計画】

1. 講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス（1回）。
2. 経済学とは何か。経済学の目的。（2回）。
3. 経済の歴史の概観。（3回）。
原始共同体～奴隷制～封建制～資本主義～社会主義社会
4. 経済学の歴史の概観。（8回程度）。
 1. 重商主義・重農主義
 2. アダム・スミスの経済学。
 3. D. リカードの経済学
 4. J・S・ミルの経済学
5. 経済学の基礎理論。（11回程度）。
 1. 限界革命と新古典派経済学
 2. ケインズ経済学
 3. マルクス経済学
 1. 商品
 2. 貨幣
 3. 資本とは何か。
 4. 剰余価値の生産。
 5. 賃金。
 6. 資本の蓄積。
 7. 資本の流通過程。
 8. 利潤・信用。
6. 現代の日本経済および国際経済を理論的に概観する。（3回）。
7. 講義の総括。（1回）。

【成績評価の方法】

成績評価は学期末のテストによって行なう。

成績不良者を救済するために、講義中に小テストを行う予定です。

【教科書】

テキストは指定しません。受講者数が適度な限度内であれば、出来る限り、講義資料等を配布するようにします。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4	上 野 勝 男

【講義概要・学習目標】

日本経済が深刻な不況から脱出できず苦しんでいるときに、諸君は経済学を学びはじめるわけです。科学技術がこれだけ発展した現代に、多種多様な商品があふれているのに、なぜ倒産や破産、失業が生じ、個人の生活は荒波にもまれる木の葉のように浮沈にさらされるのだろうか。不況のない、失業のない、安心して暮らせる経済はどうしたら可能か。こうした切実な問題に対する答えを求めようとして入学したことでしょう。しかし、学問には「玄関あけたら」すぐ食べられるご飯のような安直な解答はありません。それがあれば、そもそも経済に問題もなく、諸君も苦労して大学へ行く必要もないでしょう。経済の様々な問題・矛盾を解明することは、山登りと似ています。経済の構造全体と変化の行方を一望のもとにとらえるためには、山でいえば頂上の峰をきわめなければなりません。このためには、ふもとから一步一步着実に登っていかねばなりません。このことは経済学でいえば、私たちの生きる資本主義のもっとも基礎的な仕組みを、もっとも基礎的で重要な概念をしっかりと理解し、身につけることです。この講義は「ふもと」からの一歩のためのものです。基礎的な概念についての解説を中心にしますが、どこを登っているのかわからなくならないために、現代経済のトピックスも随時とりあげていく予定です。

【講義計画】

第1回の講義時間に目次とスケジュールを知らせます。

資料プリント配布し、それにそって授業を進めますので要注意です。

【成績評価の方法】

山登りは、少しづらくまた退屈かもしれないが、一步一步登るといふプロセスが大事で楽しいものなのです。だから、講義への出席を大事にします（そのために小テストを随時実施します）。そして、もちろん定期試験もします。

【教科書】

テキストは指定しません。下記の参考書に基づくプリントを配布します。

【参考文献】

川上則道 著『『資本論』の教室一きっちりわかる経済学の基礎一』（新日本出版社）

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
経済学史 (旧経済学史Ⅰ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	熊 谷 次 郎
02	秋学期集中	4	

【講義概要・学習目標】

モノが工場でつくられ、市場に送られ、消費者の手元に届く。この動きはフロー。その工場と機械設備とそこで働く人たちの家屋はストック。こうしてストックなくしてフローは生まれないことがわかる。経済学史という科目は、このフローとストックの比喩を使えば、経済学のストックに相当する。これまでに蓄積されてきた経済学の理論、思想、政策のストックをいろいろ調べて（在庫管理みたいなもの）、現状分析に役立たせようとするのである。こうした科目の性質上、知識集約型の講義になるので、知識欲旺盛で経済学上のさまざまなアイデアに関心のある人には受講を薦めたい。

この講義では、主に経済学形成の星雲時代といわれる重商主義と、それを批判して登場してきた古典派経済学とを扱う。重商主義は理論としては主義といえるほどの体系性はなかったが、16世紀末から18世紀中葉過ぎまでの約200年間ヨーロッパにおいて支配的であった経済思想・経済政策である。理論的には未熟であっても、重商主義は経済社会を考える際に多彩なアイデアやコンセプトを含んでいるので、そうした重商主義の側面を提示したいと考えている。古典派経済学は、アダム・スミス、リカードウ、ジョン・スチュアート・ミルなど18世紀末から19世紀中葉にかけてのイギリスの経済学者が展開した経済学を一般には意味するが、経済学を学ぶ以上、彼らについて一定の知識をもつことは経済学の基礎文法を知るようなもので、現代経済学の理解にも不可欠であろう。

【講義計画】

前半はテキストをもとに重商主義について講義する。重商主義を基本的には貨幣的体系の経済学としてとらえたうえで、その多様な経済社会の把握が受講生の現代社会把握の一助になればよいという観点で講義する。後半は古典派経済学を実物的体系ととらえたうえで、資本主義が台頭し、支配的な経済システムとなっていく過程で何が問題であったのかを明らかにすることに力を置く予定である。

【成績評価の方法】

受講生（履修登録者）が100名以上の場合は月に1度の小テスト（15～20分程度）と期末テストの成績によって評価する。100名以下の場合は出欠と期末試験の結果とで総合的に評価する。なぜこのような方法をとるかという点、これまでの経験から、この方法が受講者の学習の理解度や進捗の程度を知る上でとても有効であることを知ったからである。

【教科書】

竹本洋・大森郁夫編著『重商主義再考』日本経済評論社、2002年、2800円。

【参考文献】

必要に応じてその都度指示。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、E生対象外

J生は02クラスのみ対象

科 目 名			
経済学特講－ERE対策講座～演習ミクロ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	矢 根 眞 二

【講義概要・学習目標】

経済学検定試験（ERE：<http://www.ere.or.jp/>）は、公務員や大学院の受験と同じように、ミクロとマクロの比重が高く、特にミクロでは偏微分等の計算力を要する問題が毎年出題されています。

本講座は、こうした資格試験や公務員試験の受験に関心を持つ学生を対象に、実際に過去のミクロ経済学の試験問題を自ら解くことによって、「ミクロ経済学」の実践的な問題解決能力の向上を学習目標としています。

ですから授業形式も、こちらで用意する過去の試験問題を実際に自ら解くことを中心とし、疑問点のみを解説する実践的な演習形式を予定しています。そのため、受講者の基本的なミクロ経済学の理解と高校程度の微分等の計算力（もしくはそれぞれ「経済原論IA-1」や「経済（学のための）数学（入門）」などの履修）を前提にして授業を進めます。

とはいえ実際に授業を進めるにあたっては、ミクロ経済学の簡単な復習が必要になったり、参考文献のようなコンパクトなテキストの読解が必要になったりすることもあるでしょうから、学習順序や進度も臨機応変に対処する予定です。

【講義計画】

★初回の授業では授業計画の説明をしますから、このページを持参して下さい。

●実際の試験問題を参考文献のような標準的なテキストと対応させると、次のような順序で問題演習・解説を進めるのが最も効率的です。

- 0 受講者の基礎学力チェック・要望のヒアリング・計画作成
- 1 基本概念
- 2 競争市場の部分均衡モデル
- 3 効用関数と家計の行動
- 4 生産・費用関数と企業の行動
- 5 一般均衡分析とエッジワースボックス
- 6 独占と寡占
- 7 外部性と公共財
- 8 情報の経済学
- 9 ゲーム理論
- 10 異時点間の消費

★しかし3-5や10は本学のミクロ経済学（経済原論IA-1）の講義でもカバーしていないことが多いので、最初に受講者と相談して学習順序を決める予定です。

【成績評価の方法】

演習形式の授業のう少数人数が予想されるので、最初に受講者と相談のうえ決定する予定です。

【教科書】

こちらで経済学検定試験（ERE）を中心とする過去のミクロの問題を用意しますから、特に授業のために用意するものではありません（もちろん公務員試験と同じように、経済学検定試験も7・12月の試験に合わせて毎年5・10月には問題集や参考書などが出版されていますから、それらを活用してもかまいません）。

【参考文献】

★経済学検定試験の問題の解答を見ても理解できない場合には、ミクロ経済学や中高の数学の基礎知識を欠いているのでしょから、本学で言えば上記の授業を履修するかその教科書を復習するのが最も手軽な方法です。解答を見れば理解できるけれども、自力ではまったく問題が解けない場合には、自分の弱点に応じて以下のような図書館に複数冊あるテキストで補うのが効率的でしょう。

●西村和雄(2001)『ミクロ経済学』岩波書店 2800 → EREや公務員の試験対策として直接利用できる最もやさしくコンパクトなテキストです。ただし入門経済学を学んだ経験もない場合には、抽象的な論理が無味乾燥に思えて読みこなすのも難しいかもしれません。

●ドウリング『例題で学ぶ 入門経済数学 上』CPA 2913 →

第1-4章まで復習すれば大半の問題に必要な基本的な計算力をカバーできます。第5-6章までカバーすれば、一般均衡理論の問題も解けるようになります。

科 目 名			
経済学特講－就職試験対策のための数学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	三 原 裕 子

か
行

【講義概要・学習目標】

数学とは論理力や分析力を鍛えるのに格好の「道具」です。このような論理力を試すために、就職活動において不可欠であるといっても過言ではない適性検査のうちの1つに数学が用いられています。

適性検査とはもともと企業組織内の人事異動に利用されており適材適所を把握するための手段とされていました。ところが近年では毎年のべ50万人の学生が受験しており、企業サイドが多数の応募者を絞り込むために適性検査が実施されています。

この適性検査は時間制限に比べると問題数は多いということから早めに対策を練って問題数をこなしておく必要があります。特に数学は頭の中で考えるのではなく、実際に手を動かして問題数を解かなければ身につけません。

そこでこの講義では、来るべき適性検査のために数学の問題を数多く実際に解くことで就職試験に備えることを目的とします。企業サイドの篩から落ちないようにするためには少しでも早く、そして少しでも多く手を動かすことが必要なのです。

【講義計画】

就職試験に頻繁に出題される問題を中心に解説した後、みなさんにどんどん問題を解いてもらいます。

- ・数と式、方程式
- ・関数とグラフ
- ・図形
- ・数的処理と知能問題
- ・集合と論理
- ・確立

ただし、皆さんの理解度に応じて講義の順序もしくは内容を変更する場合があります。

【成績評価の方法】

- ・講義中における出席は一切とりません。
- ・1ヶ月に1（2）回程度、課題または小テストを課します。
- ・講義期間中を通じて皆さんの達成度、課題提出および小テストを総合的に評価します。

【教科書】

使用しません。

【参考文献】

必要に応じて紹介します。

科 目 名			
経済学特講－経済学部で必要な中高数学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	三 原 裕 子

【講義概要・学習目標】

数学が苦手で文系である経済学部を選んだ人は多いのではないのでしょうか。ところが実際蓋を開けてみると、「思いっきり数学を使う」ということで戸惑っている人も多いはず。別にこれは学生を意図的にいじめようとしているのではなく、数学を用いることで明快な議論を展開することが出来る、という意味で数学が一番便利な「道具」だからなのです。パソコンを操作するときに「マニュアル」を読みこなせないと十分に利用できない、これと同じです。つまり数学とは経済学を読みこなすための「マニュアル」なのです。ただしそこで使われる数学はとてつもなく難しいものではなく中・高数学で十分なレベルなのです。

そこでこの講義では、経済学を学ぶ上で最小限必要である中・高数学を学ぶことを目的とします。

【講義計画】

以下を中心に講義を進めていきます。

- ・数と式、方程式
- ・関数とグラフ
- ・微分
- ・微分の応用
- ・行列

ただし、皆さんの理解度に応じて講義内容を変更する場合もあります。

【成績評価の方法】

- ・講義中における出席は一切とりません。
- ・1ヶ月に1（2）回程度、課題または小テストを課します。
- ・講義期間中を通じての皆さんの達成度、課題提出および小テストを総合的に評価します。

【教科書】

使用しません。ただし必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

必要に応じて紹介します。

科 目 名			
経済学特講－戦後日本経済の軌道			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	モ グ ベ ル ザファル Moghbel Zafar

【講義概要・学習目標】

This is an introductory course on the Japanese economy focused on the domestic aspects of postwar development. The purpose is to familiarize economics majors and non-majors with the basic framework of the present-day Japanese economy and some salient domestic economic events and developments that have determined the course of the nation's postwar economic progress. Lectures will cover key issues in each of the six postwar decades and will close with a speculative vision of Japan in the year 2020 with a focus on what role Japan can be expected to play in the global economy of the 21st century. Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. A high level of English comprehension is required.

【講義計画】

1. Overview of the Japanese economy today
 - * Statistical overview
 - * Dimensions of Japan's economic power and influence
 - * The unfolding demographic crisis
2. Phoenix risen from the ashes: rejoining the community of nations
3. Income-Doubling Plan and the era of accelerated economic growth
4. Limits to growth: environmental crisis and oil shocks
5. A season for Japan bashing and the logic of incremental adjustment
6. Plaza Accord and learning to live with "yen-daka"
7. Bubble economy: policy failure and irrational exuberance
8. Limits of Japan's postwar economic model and the lingering post-bubble crisis
9. Vision for Japan in 2020

【成績評価の方法】

Grades will be based on attendance, participation in class discussions, reports submitted and test results.

【教科書】

Handouts will be provided.

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
経済学特講－戦後世界経済の中の日本			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	モ グ ベ ル ザ フ ァ ル Moghbel Zafar

【講義概要・学習目標】

This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the status of Japan in the global economy and its basic international economic strategies and achievements in the postwar period. The purpose of this course is to familiarize economics and non-economics majors with Japan's basic policy framework for its international economic relations and to examine the course of Japan's progress from postwar reconstruction to global economic superpower.

Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. Therefore, a high level of English comprehension is required.

【講義計画】

1. The Japanese economy in the world economy today
 - * Statistical overview
 - * Japan's basic path of development in the global economy
 - * Challenges of globalization
2. Foreign trade: policies, strategies, achievements
3. Japan's international economic negotiations: 1985-1993
4. Balance of payments: secular trends, recent developments
5. Foreign investment: policies, strategies, achievements

【成績評価の方法】

Grades will be based on attendance, participation in class discussion, reports submitted and test results.

【教科書】

Handouts will be provided.

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
経済学特講－日本の企業経営に学ぶ経済			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	中 野 瑞 彦

【講義概要・学習目標】

The purpose of this course is to study business policies and business management of Japanese companies. Business cases of Japanese big companies such as Sony Corporation and Toyota Motor Corporation which are representative of major industries will be discussed. We will try to recognize their success factors as well as failure causes and evaluate the result of their business management.

All lectures will be done in English. Fairly good level of English ability is required. Attendants should read papers prior to lessons and understand key issues of business cases.

【講義計画】

Our aim is not to analyze industrial structures but business management of particular companies. Tentative list of industries covering target companies are as follows:

1. Introduction & History of Japanese Business Industries
2. Electric Industry
3. Automobile Industry
4. Chemical Industry
5. Banking Industry
6. Telecommunication Industry
7. Media Industry
8. Optical instrument Industry

【成績評価の方法】

Monthly short exams (presumably three times) and final exam. All answers should be written in English.

【教科書】

Handouts will be provided.

【参考文献】

They will be indicated in the first lecture.

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
経済学特講－日本の物流			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

担当教員がその研究の専門とする日本における物流システムの空間的展開について講義をする。生産と消費をつなぐ物流がどのように変化してきたのか。高速道路・国際海上コンテナ輸送・国際航空貨物輸送がどのように展開してきたのかを具体的に説明する。また自動車部品をはじめ、ジャスト・イン・タイムによる物流システムの空間的展開について、紹介する。流通・物流関係に就職をめざす人には業界研究の一助となろう。

【講義計画】

1. 物流と情報化、ロジスティクス
2. 全国的な貨物流動パターン
3. 素材の鉄道輸送
4. 内航海運による石油輸送
5. 定期トラック路線網の形成過程
6. 全国陸上輸送体系における貨物流動パターン
7. 高速道路における交通流動
8. 産業構造の転換と物流の変化
9. ジャスト・イン・タイムにおける自動車部品物流
10. 国際物流 日本を中心とする国際航空貨物輸送
11. 国際物流 日本を中心とする海上コンテナ貨物輸送

【成績評価の方法】

テキストの内容に関する課題レポートのみで評価する。出席状況は成績に一切、考慮しない。

【教科書】

野尻亘『日本の物流』（仮題）古今書院 2005年秋学期までに刊行予定。

【参考文献】

授業中に、適時、紹介する。

科 目 名			
経済学特講－外国直接投資と発展途上国			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	カ 何 イ 為

【講義概要・学習目標】

世界における直接投資の大部分は先進国間での直接投資であるが、発展途上国の中でも特にアジア諸国は多くの直接投資を引き付けることに成功した。直接投資は受け入れ国の発展途上国に対してどのような影響を与えているだろうか。本講義では、中国を中心に考えたい。

【講義計画】

前期：直接投資が発展途上国の経済発展に積極的な役割を果たしていることを踏まえて、直接投資の定義及び発展途上国におけるその経済的な役割に関する理論を講義する。

後期：中国経済における直接投資のインパクトについて概括的な説明を行う。

【成績評価の方法】

評価は出席、レポートをもって行う。

【教科書】

使用しない。ただし、講義の際に随時プリントを配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
経済学特講－経済学検定試験対策講座B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

春学期に行われた『経済学検定試験対策講座A』に引き続き、この講義では、経済学検定試験（ERE）の出題頻度の高いマクロ経済学に関する問題解説を行う。「資格志向」の時代にマッチした講義ではあるが、本当にEREという資格を獲得したいのなら、出題範囲について知ることよりも、実際に問題を解くことが要求される。しかもそこには（受験）テクニックも必要となる。つまりこの講義では、（語弊を恐れず言うならば）受験テクニックの伝授のために行われるといっても過言ではないだろう。その意味で、この講義に参加するには、ある程度の予備知識が必要になることは覚悟していただきたい。

【講義計画】

受講生の多寡によって、講義方法は若干異なる。

- I．経済数学入門（2～3回）
- II．マクロ経済学の概略（3～4回）
- III．問題解説（もしくは演習）

【成績評価の方法】

受講生の多寡によって、評価方法を若干変える。

- ①出席はとらない
- ②期末試験を行う
- ③受講生が多い場合、講義時間中に数回小テストを行う。
- ④受講生が少ない場合、学生に実際に問題を解いてもらう。その出来映えにより平常点を与える。

※期末テストと小テスト（もしくは平常点）を総合評価して、単位認定を行う。

【教科書】

使用しない。適宜資料を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
経済学特講－証券の基礎知識 経営学特講－証券の基礎知識 （旧経営・商学特講－証券の基礎知識）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	中 野 瑞 彦

【講義概要・学習目標】

本講義は、日本の代表的な証券会社である野村證券株式会社の専門講師陣によるインテグレーション講座である（2002年度から開講）。現代の金融経済では、直接金融の比重が高まってきており、証券化の流れが急速に進んでいる。その中で証券市場が果たす役割はきわめて大きいものがあるが、その実態はどのようなものかを現場の鋭い実務感覚をベースにわかりやすく解説してくれるのが、この講義の眼目である。証券市場と証券投資の現実を知るとは、将来の資産運用に役立つ知識を得るだけでなく、生きた経済を肌で感じる機会に出会うことでもある。多くの意欲的な学生諸君が受講して、自らの学問的感覚を磨いてくれることを期待している。

【講義計画】

次のような内容を予定している、ただし、ガイダンス以外は諸般の都合により、変更されることがある。

- 1．ガイダンス
- 2．経済情報の捉え方
- 3．経済成長と金融資本市場について
- 4．証券投資のリスク・リターンについて
- 5．株式市場の役割と投資の基礎知識について
- 6．債券市場の役割と投資の基礎知識について
- 7．投資信託の役割とその仕組みについて
- 8．ポートフォリオ・マネジメントについて
- 9．市場のグローバル化と証券投資について
- 10．資産運用とライフ・プランニング
- 11．資本市場における投資家心理について
- 12．個人投資家と証券ビジネスについて

【成績評価の方法】

期末試験をベースに評価する。

【教科書】

野村証券投資情報部編「証券投資の基礎」丸善株式会社、2002年

【参考文献】

氏家純一編「日本の資本市場」東洋経済新報社、2002年

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経済学特講－日本経済入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	伊代田 光 彦

【講義概要・学習目標】

During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress.?

This lecture focuses on the following three points. First are the bright sides in the economy. Here we refer to the results of economic growth from various aspects: per capita income, spreading rate of durable goods, social security, etc.

Second are harmful side effects of the economic change. We here deal with environmental disruption, inflation, bubbles, stagnation, income distribution, etc.

Finally we deal with an ideal economy through an assessment of bright and gloomy sides of economic change during the past half century.

I will make an effort so that students may easily understand this lecture. I will try to use charts and tables as much as possible. I will explain a basic theory when I consider it is indispensable for your full understanding. I hope you will accept the challenge of a lecture conducted entirely in English. Do not hesitate to attend the lecture. The most important things are your spirit and regular attendance. Come and start now.

【講義計画】

1. Introduction
2. Historical Changes of the Japanese Economy
 - (1) Facts (2) Reform and the beginning of strong growth
3. Rapid Economic Growth
 - (1) General background (2) Positive effects (3) Negative effects (4) From the GNP-focused growthmanship to welfare-oriented society
4. Bubble Economy and Its Consequence
 - (1) Bubble ages (burst, triggering role of politics) (2) The process of bursting the bubble (3) Its consequence (bad loan, outstanding government bonds)
5. Income and Asset
 - (1) Income and asset distribution (2) Typical household and pension scheme
6. Concluding Remarks (the quality of life)

*This is a slow lecture which covers chapters 1, 2, 3, and 6.

【成績評価の方法】

Evaluation will be based on attendance (35%), and two papers (reports) (70%)

【教科書】

Handouts will be provided.
Short reading series will be provided.

【参考文献】

Ito, Takatoshi (1992). *The Japanese Economy*, chap. 3, Massachusetts Institute of Technology
Tsuru, Shigeto (1993). *Japan's Capitalism*, chap. 3, Cambridge University Press.
Itoh, Makoto (2000). *Japanese Economy Reconsidered*, chap. 4, Palgrave.

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
経済学特講－ファッション産業論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	富 澤 修 身

【講義概要・学習目標】

消費や消費社会についての議論が盛んである。過剰生産と過剰消費が大きな問題となっている。この2つの過剰の組み合わせは、きわめて現代的課題である。しかも過剰消費が、個人レベルでの豊かさに結びつかないだけでなく、地球社会レベルでは解決の急がれる大問題を生み出している。生産し、消費すれば、豊かになれる、幸せになれるという大前提を再検討しなければならない状況に立たされているといえよう。経済学や経営学からの従来の研究は、生産中心でもよかったが、現代の問題状況は、もはやこれでは不十分である。生産と消費を同時に扱う必要がある。豊かさの欠如（感）という点では、人間の欲求を扱う必要がある。経済学に美の視点を取り入れる必要がある。それゆえ、大きく構えれば、「消費と美」の領域に分け入るために、ソーシャルサイエンスとヒューマンサイエンスの両視点を踏まえる必要がある。以上のような問題意識を踏まえて、ファッション産業論を講義する。

【講義計画】

1. 社会、衣服、ファッションビジネス
2. 資本主義社会における消費
3. 衣服の変化とファッション現象
4. 20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化
5. 世界繊維産業の見取り図
6. 3大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容
7. 日本のファッション産業システム
8. ファッション産業システムの情報化
9. ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動
10. 縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部
11. ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業
12. 都市生活のファッション化とファッションビジネス創造
13. 繊維アパレル産業と社会的責任
14. 終章

【成績評価の方法】

定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。受講者数が少ない場合は、変更の可能性有り。

【教科書】

富澤修身著『ファッション産業論』（創風社、2003年）

【参考文献】

なし

科 目 名			
経済学特別講義－戦後日本経済の光と影 (旧経済学特講－戦後日本経済の光と影)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	伊代田 光 彦

【講義概要・学習目標】

During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress.?

This lecture focuses on the following three points. First are the bright sides in the economy. Here we refer to the results of economic growth from various aspects: per capita income, spreading rate of durable goods, social security, etc.

Second are harmful side effects of the economic change. We here deal with environmental disruption, inflation, bubbles, stagnation, income distribution, etc.

Finally we deal with an ideal economy through an assessment of bright and gloomy sides of economic change during the past half century.

I will make an effort so that students may easily understand this lecture. I will try to use charts and tables as much as possible. I will explain a basic theory when I consider it is indispensable for your full understanding. I hope you will accept the challenge of a lecture conducted entirely in English. Do not hesitate to attend the lecture. The most important things are your spirit and regular attendance. Come and start now.

【講義計画】

1. Introduction
2. Historical Changes of the Japanese Economy
 - (1) Facts (2) Reform and the beginning of strong growth
3. Rapid Economic Growth
 - (1) General background (2) Positive effects (3) Negative effects (4) From the GNP-focused growthmanship to welfare-oriented society
4. Bubble Economy and Its Consequence
 - (1) Bubble ages (burst, triggering role of politics)
 - (2) The process of bursting the bubble
 - (3) Its consequence (bad loan, outstanding government bonds)
5. Income and Asset
 - (1) Income and asset distribution
 - (2) Typical household and pension scheme
6. Concluding Remarks (the quality of life)

*This lecture covers whole chapters but focuses chapters 4, and 5.

【成績評価の方法】

Evaluation will be based on attendance (35 %), and two papers (reports) (70%)

【教科書】

Handouts will be provided.
Short reading series will be provided.

【参考文献】

Ito, Takatoshi (1992). *The Japanese Economy*, chap. 3, Massachusetts Institute of Technology
Tsuru, Shigeto (1993). *Japan's Capitalism*, chap. 3, Cambridge University Press.
Itoh, Makoto (2000). *Japanese Economy Reconsidered*, chap. 4, Palgrave.

【備考】

英語による授業科目
02～04生対象

科 目 名			
経済学入門 [編入生用]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	吉 川 真 裕

【講義概要・学習目標】

この科目では、編入生に経済学部と同等にまで追いつくことを目指して、ミクロ経済学とマクロ経済学を学習することを目標とする。

学習の相乗効果を高めるために、<<<前期集中の経済原論IA-1 (ミクロ経済学)、後期集中の経済原論IA-2 (マクロ経済学) を履修する>>>ことをお勧めする。また、友達を作るためには、演習Ⅲや経済情報処理演習、外国書購読、等の少人数の授業を履修することをお勧めする。

他の授業の履修登録に関しては、第1回目の授業でアドバイスを与えるので、それまでに登録をしてしまわないように>>>して欲しい。ただし、予備登録の必要な科目は予備登録を忘れないように。

【講義計画】

前期 (ミクロ経済学) :

1. 消費者行動の理論
2. 企業の理論
3. 市場均衡の理論
4. 独占の理論
5. 不確実性と情報

後期 (マクロ経済学) :

1. 国民所得の概念
2. 国民所得の決定 (財市場の理論)
3. 貨幣市場の理論
4. 財市場と貨幣市場の均衡 (IS-LM分析)
5. 景気循環と経済成長
6. 改革とともに回復を続ける日本経済
7. 地域経済再生への展望
8. グローバル化の新たな課題と構造改革

【成績評価の方法】

授業態度と授業内試験。

【教科書】

特になし (必要な場合は追って指示する)。

【参考文献】

ミクロ経済学 :

小暮太一『ミクロ経済学の楽論』遊タイム出版、2003年、1000円。
黒坂真央 (編)『ミクロ経済学を学ぶ』法律文化社、2004年、1800円。
伊藤元重『ミクロ経済学 第2版』日本評論社、2003年、3000円。

マクロ経済学 :

小暮太一『マクロ経済学の楽論』遊タイム出版、2003年、1000円。
黒坂真央 (編)『マクロ経済学を学ぶ』法律文化社、2004年、1800円。
中谷巖『入門マクロ経済学 第4版』日本評論社、2000年、3000円。

科 目 名			
経済学のための数学入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

経済学部で数学を多用するということを聞いて驚いている人は多いと思います。しかし、小中高で学ぶ数学は数学という学問の一部です。そして、指導要領に縛られ受験の圧力にさらされているため決して健全な形でわかりやすい形でもありません。さらに、経済学で必要となる数学は受験テクニックではなく、高校までの数学ではあまり重きを置かれていない「言語」としての数学です。

ですから、入試で必要となるテクニックなどを除外し広い視野で見ること、受験準備ではなく基本的な問題演習を繰り返すことで今まで苦手に思ってきた諸君にも経済学部で要求される数学の基礎が提供できるはずです。この講義の目的はそのような、高いレベルから小中高の数学を見直し、整理すると同時に更なる高みを目指すことにあります。

自己充足的な講義を目指すので、小中高の数学の知識をも復習しながら進む予定ですから小中高で数学を苦手にした諸君でもそのことで恐れることはありません。しかし、受験テクニックは扱いませんし、高校までの数学とは違う視点での数学を講義しますので、自分の頭を使い手を動かして考えることも必要になってきます。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになってください。

【講義計画】

- ★オリエンテーション
- ★中学数学の復習
 - ・数と式の復習
 - ・一次方程式
 - ・二次方程式
 - ・連立方程式
- ★行列とベクトル
 - ・表と行列
 - ・ベクトル
 - ・連立方程式への応用
 - ・産業連関表への応用
- ★関数と微分
 - ・いろいろな関数
 - ・微分の概念
 - ・いろいろな関数の微分
 - ・微分の応用
 - ・多変数関数

【成績評価の方法】

学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。詳細はオリエンテーション時に説明します。

【教科書】

竹之内 脩（著）経済・経営系数学概説 新世社

【参考文献】

数学入門 遠山啓著、岩波書店、岩波新書
 大道を行く高校数学 代数・幾何編、橘 謙他著、現代数学社
 大道を行く高校数学 解析編、安藤洋美著、現代数学社
 大道を行く高校数学 統計数学編、安藤洋美著、現代数学社
 大学新入生のための数学入門、石村園子著、共立出版
 やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分、石村園子著、共立出版

その他は進行状況に応じて指示します。

科 目 名			
経済原論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	服 部 容 教

【講義概要・学習目標】

マクロ経済学の基礎を講義する。マクロ経済学の基礎であり、またもつとも有名で、またもつとも基礎的なモデルとしてのIS, LMモデルを中心に講義を進める。

【講義計画】

下記のテーマでそれぞれ3－4回の予定で講義する。

1. 世界経済の概要
2. 財市場
3. 金融市場
4. 財市場と金融市場およびIS, LMモデル
5. 期待
6. 金融市場と期待

【成績評価の方法】

数回のレポート、期末試験を総合して評価する。

【教科書】

ブランチャール「マクロ経済学」（上）、東洋経済新報社、1999年

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
経済原論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	森 誠

【講義概要・学習目標】

近代経済学のマクロ経済を講義します。
 まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。
 近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で基本から解説します。そして、慣れるために、ほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れているはずです。

【講義計画】

- 1、GDPと3面等価の原則
- 2、実質と名目
- 3、ISバランスー貿易黒字と貯蓄ー
- 4、GDP決定論の基礎
- 5、均衡予算定理
- 6、IS曲線
- 7、LM曲線
- 8、財政政策と金融政策の効果
- 9、リカード命題

【成績評価の方法】

年度末試験

【教科書】

特になし

【参考文献】

工藤・井上・金谷『マクロ経済学』東洋経済, 惣宇利紀男、服部容教『21世紀の経済政策』日本評論社, 吉川洋『マクロ経済学』岩波, ケインズ派の立場によるマクロ経済学,
 その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
経済原論ⅠA－1 (ミクロ経済学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	暮 石 渉

【講義概要・学習目標】

ミクロ経済学では、希少な資源を保有する人々がどのように行動し、その結果、資源がどのように配分されるのかを分析します。本講義では、初学者向けにミクロ経済学で用いられる基本的な概念を身に付けられるように講義を進めていきます。
 本講義の内容を習得することで、環境問題、医療、年金など日ごろ私たちが接する機会の多い問題を理解、解決することができるよう努めます。

【講義計画】

〈前期〉
 イントロダクション
 市場における需要と供給の作用
 弾力性とその応用
 政府の政策
 余剰と市場の効率性

〈後期〉
 外部性
 公共財と共有資源
 独占と寡占
 ミクロ経済学の応用
 より進んだ話題

【成績評価の方法】

前期試験と期末試験に基づき評価します

【教科書】

『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』N. グレゴリー・マンキュー著、足立英之他訳、東洋経済新報社2000年。

【参考文献】

『入門経済学』伊藤元重著、日本評論社2001年。
 『First Step ミクロ経済学』賀川昭夫他著、有斐閣1998年。
 『現代経済学入門ミクロ経済学』西村和雄著、岩波書店、1996年。

科 目 名			
経済原論 I A-1 (ミクロ経済学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4	竹 歳 一 紀

【講義概要・学習目標】

- ミクロ経済学の基礎理論について講義する。
- ①家計（消費者）・企業（生産者）といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか
 - ②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか
 - ③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることがなぜ望ましいといえるか

といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。
ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となるが、本講義では、複雑な数式の使用は極力避け、主に図を用いて説明する。

なお、ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。

【講義計画】

1. ミクロ経済学の考え方
2. 需要と供給
3. 消費者行動と需要曲線
4. 企業行動と供給曲線
5. 市場均衡と経済厚生
6. 独占の理論
7. 派生需要と生産要素市場
8. 不確実性と情報

【成績評価の方法】

中間試験および学期末試験の成績による。
詳細は初回に説明する。

【教科書】

特に指定しないが、参考書として下記のようなテキストをあげておく。

【参考文献】

荒井一博『ファンダメンタル ミクロ経済学』（中央経済社）
石川秀樹『経済学入門Ⅱ ミクロ編』（中央経済社）
西村和雄『現代経済学入門 ミクロ経済学』（岩波書店）
スティグリッツ『入門経済学』・『ミクロ経済学』（東洋経済新報社）

科 目 名			
経済原論 I A-1 (ミクロ経済学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4	矢 根 眞 二

【講義概要・学習目標】

経済学のコアであるミクロとマクロのうち、ミクロ経済学の基本を学習する講義です。受講生の大半は就職希望なので、「どうして産業・業界によって収益・賃金が大きく異なるのか」という見地から「競争と独占」を、「なぜ同じ産業・組織なのに戦略次第で結果が異なるのか」という見地から「ゲームと情報」を学習するのが本講義の特徴です。実際に日々の「日経新聞」などを暇をみず現実の産業組織や企業戦略に関心を持ち、それらを「経済学的に考えてみたい」という意欲的な受講者を歓迎します。

そのため、入門レベルのミクロ経済学の教科書を指定すると共に、偏微分の知識が必要な一般均衡理論の部分はスキップします。しかしそれでも練習問題を解くには、企業や市場に関する基礎知識や中高程度の数学の計算力が不可欠ですから、「経済学基礎理論A」「経済学のための数学入門」程度の予備知識は必要です。特に「複雑で多様な現実の企業や産業の現実を経済学的に捉える」ということは、抽象的で簡単なモデル（模型）を通して理解することである」という科学的方法さえ学んだことがない人は、教科書を読む気にも講義を聞く気にもならないでしょうから要注意です。

【講義計画】

★初回の授業では講義概要の説明をしますから、このページを持参して下さい。

●学習内容と順序

- 第1部 ミクロ経済学とビジネス
- 第2部 競争と独占
- 第3部 ゲームと情報

●最初の第1部では、次のような順序で、入門経済学レベルの復習と数学的な予備知識をチェックします。

- 1 ビジネスとミクロ経済学
- 2 中高程度の演算力のチェック

●こうした受講者の予備知識の程度を把握した後に、第2・3部（教科書ではPart1・3に対応）の内容に移行します。これらの内容項目の詳細については開講時の教員サイトを参照して下さい。
<http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/micr.htm>

【成績評価の方法】

- 試験得点合計の6割以上が合格ラインの原則です。
- ただし授業中に課題を課した場合や貢献度の高い質疑があった場合には加点を行うこともあります。
- 試験終了後のレポート等の予定はありません。
- 追試験は定期試験の問題や形式とは大きく異なることがあります。

【教科書】

●伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』日本評論社 3000

特別な予備知識なくとも読める入門レベルのテキストですから、これだけを事前に読み練習問題もこなしておくのが最も効率的な学習法です。

講義では、入門経済学の復習に相当する「Part1 需要供給の理論」と、ゲーム理論や情報の経済学の入門に相当する「Part3 ミクロ経済学の展開」を中心に引き上げ、参考文献のような基本モデルの解説に重点をおくことによって、教科書の演習問題等を自ら解けるレベルに到達することを目指します。

【参考文献】

★ミクロ経済学の教科書には記号・グラフ・数式がつきものであるから、入門経済学や中高の数学の基礎知識が不十分だと教科書も講義も理解できなくなってしまう。まずは基礎知識の確認をしよう。余裕があるなら、授業でも言及する以下のようなテキストにチャレンジすれば、理解が深まり興味も広がるだけでなく、公務員試験やEREなどの資格試験や進学への第1歩にもなるでしょう。

●西村和雄(2001)『ミクロ経済学』岩波書店 2800 → 初級レベルの中でも資格試験等への最初のステップにもなりうるコンパクトな教科書で、伊藤元重(2003)のPart1-2の深い理解に役立ちます。

●神部伸輔(2004)『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
2500 → しっかりしたゲームと情報の経済学の入門書で、伊
藤元重(2003)のPart3の深い理解と幅広い応用に役立ちます。

科 目 名			
経済原論ⅠA-2 (マクロ経済学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	森 誠

【講義概要・学習目標】

近代経済学のマクロ経済学を講義します。
まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介しします。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。
近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れているはずです。

【講義計画】

- 1、GDPと3面等価の原則
- 2、実質と名目
- 3、ISバランスー貿易黒字と貯蓄ー
- 4、GDP決定論の基礎
- 5、均衡予算定理
- 6、IS曲線
- 7、LM曲線
- 8、財政政策と金融政策の効果
- 9、リカード命題

【成績評価の方法】

年度末試験

【教科書】

特になし

【参考文献】

・工藤・井上・金谷『マクロ経済学』東洋経済. 惣宇利紀男、服部容教編『21世紀の経済政策』日本評論社. 吉川洋『マクロ経済学』岩波, ケインズ派の立場によるマクロ経済学.
その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

科 目 名			
経済原論ⅠA－2 (マクロ経済学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

この講義は、「近代経済学」を構成する2本柱の1つであるマクロ経済学の基礎を学ぶために提供される。しかし以下の理由により、講義内容は以前に比べてより高度な内容をしていく予定にしている。第1に、(どの大学でも)1つの講義でマクロ経済の大半をフォローすることはできない。せいぜい「IS-LM分析」止まりである。しかしこの分析は、30年ほど前に事実上崩壊している。この分析がなぜ崩壊したのかを知っておく必要はあるが、これを(講義の)最終点に設定するのは、日本経済の現状を(理論的に)語る上では些か「片手落ち」である。第2に、マクロ経済学の真の面白さは「IS-LM分析」以降の内容にある。しかし、これに触れることなく大学を卒業していくのは実にもったいない。経済の「今」を知ろうと思えば、その理論も「今」のレベルでなければならぬ。第3に、私の気性の問題がある。ごくありふれた教科書どおりを講義していても、教える側としたら実に面白くない。教える側の「鮮度」を保とうと思えば、教える内容も「新鮮」なものでなければならぬ。講義内容を高度にすることとは、数学を積極的に利用した講義にすることを意味する(しかしレベル自体は、高校初等レベルで十分対応できる工夫は行う)。受講生においては、この点を十分覚悟の上で受講していただきたい。

【講義計画】

☆以下の内容は必ず行う。

1. 国民経済計算 (GDP)
2. 乗数理論
3. IS-LM分析
4. AD-AS分析

※そのときの経済状況や受講生の動向に応じて、どれかをセレクトして講義する。

- ・失業理論
- ・経済変動
- ・世代重複モデルとその応用

【成績評価の方法】

- ①出席は一切とらない。
 - ②講義時間中に4～8回をめぐに「小テスト」を行う(全ての参照可)。
 - ③「中間試験」および「期末試験」を行う(全ての参照不可)。
- ※「小テスト」「中間試験」「期末試験」を総合して単位認定を行う。

【教科書】

使用しない。適宜資料を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
経済原論ⅠA－2 (マクロ経済学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4	伊代田 光 彦

【講義概要・学習目標】

近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。

経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。

もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくり進めていくつもりである。

【講義計画】

各章3～4回

- 1 マクロ経済学への導入
- 2 国民所得の概念
- 3 国民所得の決定とその応用
- 4 貨幣分析
- 5 国民所得の変動(変動と成長)
- 6 マクロ経済政策(総需要管理政策)

* 時間に余裕があれば、7章(デキスト)以降についても講義する。

【成績評価の方法】

原則として年度末試験によって行うが、レポート(2回程度)を考慮する。

【教科書】

伊代田光彦著『マクロ経済学』(法律文化社、2003年)

【参考文献】

サムエルソン(著)『経済学(第13版上)』(岩波書店、1992年)

科 目 名			
経済原論 I B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	滝 田 和 夫

【講義概要・学習目標】

マルクスの経済学について講義する。ここでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。使用テキストは平明に書かれているので、事前に一読しておくで講義が理解し易いであろう。

【講義計画】

- I. 経済学の対象と方法
- II. 市場経済
 - 1. 商品経済
 - 2. 貨幣経済
- III. 資本とその増殖
 - 1. 貨幣の資本への転化
 - 2. 絶対的剰余価値の生産
 - 3. 相対的剰余価値の生産
- IV. 価格と利潤
- V. 資本の再生産と蓄積
 - 1. 資本の蓄積過程
 - 2. 社会的総資本の再生産過程
 - 3. 利潤率の傾向的低下法則

【成績評価の方法】

試験の成績による。

【教科書】

平井・北川・滝田（共著）『経済原論』（有斐閣）

【参考文献】

置塩信雄（著）『マルクス経済学』筑摩書房
 森嶋通夫（著）高須賀義博（訳）『マルクスの経済学』（東洋経済新報社）

科 目 名			
経済原論 I B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	松 尾 純

【講義概要・学習目標】

「現存社会主義」の崩壊とその後の資本主義経済への「復活」、中国共産党の推進する「市場社会主義」建設。これらの事態は、マルクスが構想した社会主義社会とはどのようなシステムであったのか、そして、それは人類が求める理想社会を実現するものであるのか、という問題を我々に投げかけている。

他方、ソ連・東欧の「現存社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義も、21世紀に入ってますますその行方は不透明となりつつあり、現存の資本主義社会は人間に幸福をもたらしているとは必ずしもいえない状況が続いている。

本講義では、このような問題状況を解決する糸口を得るために、百数十年前に資本主義批判と社会主義の実現を目指して誕生したマルクス経済学の新世紀における”再構築”を目指す。そのため、従来科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていく。

【講義計画】

[講義計画]

(前半)（5回程度）。

- 1. 講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
- 2. マルクス・エンゲルスのいわゆる「唯物史観」とは何か。
- 3. 労働疎外論とは何か。
- 4. マルクス・エンゲルス共著の『共産党宣言』には何が書かれているか。
- 5. マルクスが描いた社会主義像とソ連・東欧の「社会主義」の歴史。

(後半)（各項目1回で進めていって20回程度）

- 1. 経済学の対象と方法。
- 2. 商品論Ⅰ。
- 3. 商品論Ⅱ。
- 4. 貨幣論Ⅰ。
- 5. 貨幣論Ⅱ。
- 6. 貨幣の資本への転化論。
- 7. 資本の本源的蓄積。
- 8. 剰余価値論Ⅰ。
- 9. 剰余価値論Ⅱ。
- 10. 資本蓄積論Ⅰ。
- 11. 資本蓄積論Ⅱ。
- 12. 資本の流通過程。
- 13. 利潤論Ⅰ。
- 14. 利潤論Ⅱ。
- 15. 商業資本論。
- 16. 信用論Ⅰ
- 17. 信用論Ⅱ。
- 18. 地代論。
- 19. 講義の総括。

【成績評価の方法】

成績の評価は、基本的に学期末試験の結果にもとづいて行う。
 受講者数が適度な限度内であれば、授業時間内に小テスト等を行って成績評価の参考とする。出席率は一切考慮しない。

【教科書】

講義概要の趣旨から理解されるように、市販の教科書等は使用しない。代わりに、可能であれば、講義要旨・参考資料等を配布するよう努力する。

【参考文献】

参考書は授業時間中に適宜お知らせします。

科 目 名			
経済情報処理演習 I a (旧計算機演習)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	麻 生 憲 一
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【講義計画】

1. 表計算ソフト基本操作のまとめ
2. マクロの自動記録機能
3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5. 複利計算プログラムの作成
6. データ型の設定
7. データ整列プログラム
8. データ探索プログラム
9. 計算とプログラムの効率化
10. 金融計算プログラムの作成
11. 計測と制御
12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】

出席、レポート、講義課題の達成度に応じて評価する。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリント配布。

【参考文献】

授業中その都度指示をする。

科 目 名			
経済情報処理演習 I a (旧計算機演習)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	2	村 松 郁 夫
04	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【講義計画】

1. 表計算ソフト基本操作のまとめ
2. マクロの自動記録機能
3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5. 複利計算プログラムの作成
6. データ型の設定
7. データ整列プログラム
8. データ探索プログラム
9. 計算とプログラムの効率化
10. 金融計算プログラムの作成
11. 計測と制御
12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】

実習課題の提出状況、内容により評価する。

【教科書】

毎回、実習を進めるのに必要な資料、課題などを配布するので、教科書は指定しない。

【参考文献】

Microsoft社のExcelを利用するので、受講者が利用している参考書が、講義計画に関する内容を含んでいるならば、それを参考書としてもらってよい。
なお、コンピュータに関する書籍は改訂のスピードが速いので、開講時に紹介する。

科 目 名			
経済情報処理演習 I a (旧計算機演習)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期	2	義 永 忠 一

【講義概要・学習目標】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【講義計画】

1. 表計算ソフト基本操作のまとめ
2. マクロの自動記録機能
3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5. 複利計算プログラムの作成
6. データ型の設定
7. データ整列プログラム
8. データ探索プログラム
9. 計算とプログラムの効率化
10. 金融計算プログラムの作成
11. 計測と制御
12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】

レポート・テスト

【教科書】

実習を行うための資料、課題をプリントで配布しますので、教科書は必要ありません。

科 目 名			
経済情報処理演習 I b (旧計算機演習)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 春学期	2 2	麻 生 憲 一

【講義概要・学習目標】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【講義計画】

1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2. 行政機関の経済情報へのアクセス
3. 統計資料・調査レポートへのアクセス
4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5. 経済統計データとは
6. 経済統計データの検索と入手
7. 経済統計データの整理・グラフ化
8. 記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9. 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

出席、レポート、講義課題の達成度に応じて評価する。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリント配布。

【参考文献】

授業中にその都度指示をする。

科 目 名			
経済情報処理演習 I b (旧計算機演習)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期	2	村 松 郁 夫
04	春学期	2	

【講義概要・学習目標】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【講義計画】

1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2. 行政機関の経済情報へのアクセス
3. 統計資料・調査レポートへのアクセス
4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5. 経済統計データとは
6. 経済統計データの検索と入手
7. 経済統計データの整理・グラフ化
8. 記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9. 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

実習課題の提出状況、内容により評価する。

【教科書】

毎回、実習を進めるのに必要な資料、課題などを配布するので、教科書は指定しない。

【参考文献】

Microsoft社のExcelを利用するので、受講者が利用している参考書が、講義計画に関する内容を含んでいるならば、それを参考書としてもらってよい。なお、コンピュータに関する書籍は改訂のスピードが速いので、開講時に紹介する。

科 目 名			
経済情報処理演習 I b (旧計算機演習)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期	2	義 永 忠 一

【講義概要・学習目標】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【講義計画】

1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2. 行政機関の経済情報へのアクセス
3. 統計資料・調査レポートへのアクセス
4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5. 経済統計データとは
6. 経済統計データの検索と入手
7. 経済統計データの整理・グラフ化
8. 記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9. 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

レポート・テスト

【教科書】

実習を行うための資料、課題をプリントで配布しますので、教科書は必要ありません。

科 目 名			
経済情報処理演習Ⅱ (旧経済学特講－経済情報処理演習Ⅱ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	荒 木 英 一

【講義概要・学習目標】

経済分析におけるコンピュータ活用法について、演習を行う。
前半は、基本的で標準的なプログラミング技法を中心に、ソフトウェア間の連携や統計データ検索なども含めて、やや技術的な側面に重点をおいた演習を行う。後半は、前半で修得した技法を応用して、データ解析とシミュレーションを中心に演習をすすめていく。いくつかのテーマについては、十分実用的に使いこなせる(役立つ)レベルまで、こだわって掘り下げてみよう。
実習環境は、当面(少なくとも前半は)、Windowsベースで R などのフリーソフトを中心に進めていく予定。後半は、受講者数や進度に応じて、適宜に調整する。

【講義計画】

変数、ベクトル、マトリクス
反復処理、条件分岐、関数、ライブラリ
乱数、確率変数と確率分布
人生で役にたつ(かも知れない)計算いろいろ
記述統計の手法、景気動向指数や産業連関分析
企業財務データなどを用いた統計分析と多変量解析入門
動学モデルのシミュレーション

などなど

【成績評価の方法】

授業中の課題提出と最終講義日に行う学期末試験による。

【教科書】

使用しない。プリントを配布する。2004年度講義資料は
<http://rio.andrew.ac.jp/araki/comp04.html>
を参照のこと。

【参考文献】

適宜に指示する。

科 目 名			
経済情報処理論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	河 合 勝 彦

【講義概要・学習目標】

経済学部生のための情報処理基礎を講義する。つまり、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みを中心に情報処理の基礎知識を解説するとともに、あわせて、経済学におけるコンピュータ利用の現状と可能性について概説する。

【講義計画】

1. コンピュータとは(コンピュータの種類、パーソナルコンピュータの機能)
2. 情報社会とコンピュータ
3. コンピュータによる情報の表現
4. コンピュータによる計算の仕組み
5. コンピュータによる情報処理の仕組みと構成装置
6. パーソナルコンピュータの仕組み
7. ソフトウェアの構成
8. オペレーティングシステム
9. パソコン用ソフトウェア
10. コンピュータ・ネットワーク
11. 学内の情報環境について
12. 経済学の研究・学習とコンピュータ1(インターネット資源の活用)
13. 経済学の研究・学習とコンピュータ2(統計処理)
14. 経済学の研究・学習とコンピュータ3(シミュレーション)
15. プログラミング言語の種類と特徴
16. アルゴリズムと流れ図
17. プログラミングの基礎1(データの型と構造)
18. プログラミングの基礎2(効率的アルゴリズムの選択と設計)
19. プログラミング1(データの整列法)
20. プログラミング2(線形探索と二分探索法)
21. 計測と制御
22. 経済学とコンピュータ

【成績評価の方法】

平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単な小レポート・クラス討議を課す予定である。

【教科書】

特に指定しない。Web上のレクチャーノートを利用し、必要に応じてプリント等を配布する。

科 目 名			
経済数学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。

しかし、ベストセラーとなった『分数のできない大学生』の共著者の一人である西村教授が経済学者であることを例に取るまでもなく、数学は経済学と無縁の学問ではありません。むしろ基本的な見方を提供してくれる道具です。

本講では、「経済学のための数学入門」程度の予備知識を持つ学生に、経済学への応用を視野に入れながら、下記の項目について説明した後に問題演習を行ないます。実際に手を動かして問題に取り組むことが必須の条件となります。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになってください。

【講義計画】

- ・グラフの応用
- ・関数
- ・微分
- ・行列とベクトル

進行状況によっては他の事項も扱う。

【成績評価の方法】

学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。

【教科書】

入門・経済数学(上)、E. ドウリング著、大住栄治他訳、シーエービー出版

【参考文献】

入門・経済数学(下)、E. ドウリング著、大住栄治他訳、シーエービー出版

大道を行く高校数学 代数・幾何編、橘 謙他著、現代数学社

大道を行く高校数学 解析編、安藤洋美著、現代数学社

大道を行く高校数学 統計数学編、安藤洋美著、現代数学社

経済学のための数学入門、神谷他著、東京大学出版会

その他は進行状況に応じて指示する。

科 目 名			
経済政策			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	津 田 直 則

【講義概要・学習目標】

講義概要：経済政策は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野である。目標と手段の関係が制度やシステムのレベルで議論される場合には、問題は経済体制論にまで広がる。数量的な経済変数のレベルで議論される場合には、経済政策論はマクロやミクロの経済理論と関係してくる。最初は経済政策思想や経済体制論を取り上げ、授業の後半では、経済政策の各論や日本経済における具体的な政策問題を扱う。

学習目標：経済政策論の背景には思想や理論があること、また、思想や理論に関する見解の相違がどのように経済政策論に反映するかを理解できるようにする。

【講義計画】

1. 経済政策の目標と手段、対象と課題
2. 21世紀の経済体制
3. サードエコノミーと社会的経済
4. 市場機構と経済政策
5. マクロ経済理論と財政・金融政策
6. 日本の財政構造と金融秩序
7. 90年代日本経済をめぐるケインズ派と新古典派
8. 雇用問題と政策
9. 社会保障と政策
10. 資源・環境問題と政策
11. 地域社会と政策

【成績評価の方法】

テストと出席状況

【教科書】

毎回の授業で講義の要約と資料を配布します。

【参考文献】

授業でその都度、案内します。

科 目 名			
経済成長論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	西 川 憲 二

【講義概要・学習目標】

西欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席卷してきた。今日では、各国が世界的な規模で経済競争にさらされるようになった。

この講義では、西欧諸国の経済発展の歴史と戦後日本の経済発展の過程を検討して、経済発展の歴史的教訓を考察する。そして、経済学が経済発展をどのようにとらえているのかを簡単な経済成長理論モデルをもちいて説明する。そのなかで、経済成長の原動力として技術革新の重要性を論じる。

【講義計画】

経済成長とは
近代西欧とアメリカの経済発展
経済成長理論
日本の高度成長と現状

【成績評価の方法】

出席、レポート、学期末試験

【教科書】

なし。

科 目 名			
経済地理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

経済地理学は産業活動や経済活動が各地域にどのように展開しているのかを研究対象とする。その理論として、産業がどのような場所に立地し、集積するのかを解明する立地論や集積論がある。この授業では特に日本の経済地理を中心に取り上げる。経済のグローバル化が進行し、産業空洞化のもとで、かつては地場産業の担い手であった中小企業でさえ、低廉な労働力を求めて、アジアに進出している。このような状況のもとで、各地域の経済を均等に発展させることが可能であるのか。あるいは、大都市や先進国に発展が集中する不均等発展はいたしかたないことであるのか。考察することとしたい。

【講義計画】

1. 地域と経済
2. 経済活動の地域構造
人口集積・農業・工業・流通
3. 大都市圏の経済
首都圏・京阪神・中京
4. 低密度地域の経済
北海道・東北・信州・四国・南九州・沖縄
5. 中密度地域の経済
北関東・東海・北陸・山陽・北九州
6. 経済地域システムの変化
7. 経済地域政策の新しい視点

【成績評価の方法】

課題レポートのみによって評価する。出席状況は一切、成績に考慮しない。

【教科書】

竹内敦彦・井手策夫『日本経済地理読本』東洋経済新報社

【参考文献】

授業中に、適時、紹介する。

科 目 名			
経済統計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	桂 昭 政

【講義概要・学習目標】

経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要なSNA統計、とりわけ国民所得統計の特質と利用について、および個別分野の統計である産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用を中心に講義を進めていく。講義を通じて日本経済の現状の理解を深めるとともに、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を可能な限り行い、日本経済の現状についての理解がより一層深くなるようにしていきたいと考えている。

【講義計画】

1. 国民所得統計の特質と利用
2. 産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質と利用

【成績評価の方法】

学期末に行う試験結果を主とし、それに適時小テストを行い出席状況を加味して判定する。

【教科書】

岩井浩也（編著）『統計学へのアプローチ—情報化時代の統計利用』（ミネルヴァ書房）

【参考文献】

吉田忠・石原健一編『統計にみる日本経済』（世界思想社）木下・土居・森編『統計ガイドブック 社会・経済（第2版）』（大月書店）

科 目 名			
経済法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	牛 丸 與志夫

【講義概要・学習目標】

独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。講義では、独占禁止法の基本的知識と応用力の取得を目標とする。

【講義計画】

独占禁止法の集中規制、カルテル規制および不公正な取引方法の規制ならびに独占禁止法の実現手段を順番に講義する。独占禁止法の理解には、判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。講義では、『独禁法審決・判例百選』を常時、参照する。

【成績評価の方法】

期末試験で行う。

【教科書】

- ①岸井大太郎その他著『経済法第4版—独占禁止法と競争政策』（有斐閣アルマSPECIALIZED）（有斐閣発行）
- ②厚谷襄児・稗貫俊文編『独禁法審決・判例百選（第6版）』（有斐閣発行）
- ③青山善充・菅野和夫編『ポケット六法（平成17年度版）』（有斐閣発行）

科 目 名			
刑事訴訟法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	小早川 義 則

【講義概要・学習目標】

わが国の司法制度は大変革期を迎えている。重大な刑事事件に限り国民が裁判官とともに参加する裁判員制度（最速09年実施）にみられるように、その中心は刑事訴訟法である。すでに確定した被疑者段階での国選弁護制度のほか刑事責任ないし司法取引制度等への新しい動きもあり、04年4月開講の法科大学院もその一環として捉えるべきものである。

このような近時の新たな問題状況を踏まえて、本講義では、まず日本国憲法の制定施行に伴い全面的に改正された刑事訴訟法の特徴ないしアメリカ合衆国憲法とのかかわりを詳論する。次に刑事訴訟法の体系に沿って生の具体的な刑事事件を例に取り上げ、その背後にひそむ刑事訴訟法上の諸問題について分かり易く説明することによって、手続的な思考方法を提示し、その重要性を習得させたい。

【講義計画】

およそ次の順序で講義をすすめる予定である。

[春学期]

- (1) 刑事訴訟法の意義、目的
- (2) 刑事訴訟法制定の経緯
- (3) 憲法的刑事訴訟法
- (4) 陪審制と裁判員制
- (5) 司法取引等一日米の対比
- (6) 日本版ロースクールの意義と問題点

[秋学期]

- (1) 捜査の端緒
- (2) 被疑者取調べ
- (3) 物的証拠の収集
- (4) 公訴提起
- (5) 自白、伝聞法則
- (6) 裁判の終結、再審

【成績評価の方法】

平常点（私語厳禁）およびテスト（各学期最終日に実施）の総合評価による。

【教科書】

小早川義則『NYロースクール断想』（成文堂、04年10月）
井上正仁編『刑事訴訟法判例百選[第8版]』（有斐閣、05年春）

【参考文献】

その都度指示するが、テキストにあわせて詳細なレジュメを配布するのであわせて参照されたい。

科 目 名			
刑法 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	南 由 介

【講義概要・学習目標】

刑法総論の講義を行う。刑法総論とは、犯罪と刑罰の基礎理論であり、すべての犯罪に共通して妥当する理論である。講義内容が抽象的になるかもしれないが、それらを考察することによって刑法学を理解することのみならず、法的思考能力、さらには幅広い視野に立ち問題を解決する能力を培うことが可能になると考える。

刑法学は、抽象的で難解であると多々、指摘される。しかしそこで、難しいという感想で終わるのではなく、何故、このように複雑で抽象的であるのかをぜひ考えてほしい。ここでは、刑罰の「重さ」を考える必要がでてくる。法定刑に接したとき、それを無批判に聞き流すのではなく、どうしてこのような重い刑罰が科されるのかを、感情に流されず、疑問をもって考察してもらいたい。

【講義計画】

以下の内容の講義を予定している。

- ・犯罪論の基礎（罪刑法定主義、責任主義、刑法の適用範囲）
- ・構成要件（不作為犯論、因果関係、故意、過失）
- ・違法性（正当防衛、緊急避難、安楽死）
- ・責任（責任能力）
- ・未遂犯・不能犯論
- ・共犯論

【成績評価の方法】

試験を行う。出席はとらない。

教室内での私語は他の受講生にとって迷惑となるので一切禁止する。守れない学生の受講は御遠慮願いたい。

【教科書】

井田良＝丸山雅夫『ケーススタディ刑法・第2版』（日本評論社、2004年）

【参考文献】

山口厚『刑法総論』（有斐閣、2001年）
島岡まな編『ワークスタディ刑法総論・第2版』（不磨書房、2002年）
井田良『基礎から学ぶ刑事法・第2版』（有斐閣、2002年）
芝原＝西田＝山口編『刑法判例百選 I 総論』（有斐閣、2003年）

科 目 名			
刑法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	南 由 介

【講義概要・学習目標】

本講義では、刑法各論の講義を行う。刑法各論とは、個別の犯罪を規定している各刑罰法規の解釈を内容とするものである。各犯罪の構成に関する議論を通じて刑法各論を理解すること、および法的思考能力、さらには幅広い視野から問題を考察し解決する能力を培うことを目的とする。

刑法各論は、総論に比べ具体的であり、学生にとっても理解しやすいのではないと思う。総論を棒高跳びにたとえるならば、各論は障害物競走であるとも言われる。各犯罪ごとに論点が完結するからである。しかし、細かい論点で難解であることは各論も変わらない。これも、一歩間違えば重大な人権侵害となり得る刑罰の重みからくることなのである。難しいからといってすぐに諦めず、疑問をもって問題に向かってもらいたい。

【講義計画】

以下の内容の講義を予定している。

- ・ 個人的法益
 - 殺人罪、傷害罪、堕胎罪、遺棄罪、逮捕監禁罪、脅迫罪、強要罪、略取誘拐罪、性犯罪、住居侵入罪、名誉毀損罪、窃盗罪、強盗罪、詐欺罪、恐喝罪、横領罪、背任罪、盗品等関与罪、毀棄隠匿罪
- ・ 社会的法益
 - 放火罪、文書偽造罪
- ・ 国家的法益
 - 賄賂罪

(時間の制約上、社会的法益、国家的法益にまで至らない場合がある)

【成績評価の方法】

試験を行う。出席はとらない。
教室内での私語は他の受講生にとって迷惑となるので一切禁止する。守れない学生の受講は御遠慮願いたい。

【教科書】

井田良『刑法各論・論点講義シリーズ10』(弘文堂、2002年)
井田良ほか『よくわかる刑法』(ミネルヴァ書房、2005年公刊予定)

【参考文献】

西田典之『刑法各論・第二版』(弘文堂、2002年)
山口厚『刑法各論』(有斐閣、2003年)
島岡まな編『ワークスタディ刑法各論』(不磨書房、2002年)
井田良『基礎から学ぶ刑事法・第2版』(有斐閣、2002年)
芝原＝西田＝山口編『刑法判例百選Ⅱ各論』(有斐閣、2003年)

科 目 名			
刑法入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	安 井 哲 章

【講義概要・学習目標】

初めて法律を学ぶ人を対象に、具体的な事例の検討を通して刑法・刑事訴訟法の基礎理念を解説していきます。また、社会の安全を確保する上で採られている様々な方策も紹介したいと思います。

入門科目に相応しく、「法とは何か」、「法と道徳はどこが違うのか」といった問題についても検討することになります。

一つ一つ地道な理解を積み重ねて行き、刑法や刑事訴訟法を理解する上で必要な基礎力を身につけてもらいます。

【講義計画】

入門科目なので、法律の勉強の仕方や技術の習得にも配慮します。数回のレポート作成を通じて、自分自身で深く考える習慣を身に付けてもらいます。

【成績評価の方法】

レポートと期末試験を総合して判断します。

【教科書】

なし

【参考文献】

その都度指示します。

科 目 名			
計量経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	荒 木 英 一

【講義概要・学習目標】

経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。経済モデルとは、エコノミストの頭のなかにある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。この講義では、コンピュータを活用しながら、統計データ処理の基本からはじめて、経済学ではもっとも汎用的な実証分析手法である回帰分析を学んでいきます。

【講義計画】

記述統計のいろいろ
最小二乗法、決定係数
統計的推定と検定の考え方
回帰分析

【成績評価の方法】

授業中の小テストと学期末試験による。

【教科書】

使用しない。プリントを配布する。2004年度講義資料は
<http://rio.andrew.ac.jp/araki/gakubu04.html>
を参照のこと。

【参考文献】

適宜に指定する。

科 目 名			
原価計算システム (旧原価計算論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	小 林 哲 夫

【講義概要・学習目標】

製品原価計算の基礎的な概念や手続きについて学習する。基礎的な概念を通じて原価計算システムの基本構造を理解するとともに、計算演習に多くの時間をかけて、計算能力を身につけるようにする。

【講義計画】

おおむね次の順序で講義を行う。

- (1) 原価の基礎概念
- (2) 原価計算システム（原価計算制度）の役割
- (3) 実際総合（全部）原価計算の基本手続
- (4) 直接原価計算の手続
- (5) 個別原価計算の手続
- (6) 部門別原価計算の手続
- (7) 標準原価計算の意義と手続

【成績評価の方法】

期末テストも行うが、常時の計算演習への参加を重視する。

【教科書】

授業中に資料を配布する。

【参考文献】

小林哲夫『原価計算：理論と計算例』（中央経済社）

科 目 名			
健康・スポーツ学講義－生涯スポーツ論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	高 橋 ひとみ

【講義概要・学習目標】

高度経済成長により、生活は便利で豊かになった。反面、生活の機械化・省力化が進み、様々な電化製品や自家用車の普及により、日常生活において身体を動かす機会が減少し、「運動不足病」が人々の健康を蝕む結果となっている。加えて、都市化や通信・交通の発達には人々の生活のリズムを崩し、心身のストレスを増幅している。

激変する社会に適応して心身共に健康な生涯を送るためには、科学性に根ざした意図的・計画的な保健教育に基づき、家庭や地域における健康教育活動を活性化することが重要になってくる。

健康生活をおくるうえで欠くことのできない「運動」「休養」「栄養」であるが、本講義においては、発育・発達を考慮しながら生涯を通じての「運動」について、特に留意して学習する。

【講義計画】

1. 生涯スポーツの意義と必要性
2. 生涯スポーツの内容と特徴
3. 各国の生涯スポーツへの取り組み
4. 日本の生涯スポーツへの取り組み
5. 生涯にわたる運動・スポーツライフ
6. ライフスタイル別の生涯スポーツ施策
7. 生涯スポーツの実現に向けて
8. 健康管理システム

【成績評価の方法】

定期試験・小試験・レポートなどにより評価する。

【参考文献】

「健康科学概論」 緒方正名編著 高橋ひとみ他著 朝倉書店
「みんなの健康科学」 前橋明編著 高橋ひとみ他著 朝倉書店

科 目 名			
健康・スポーツ学講義－スポーツ科学 (旧スポーツ科学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	今 西 俊 次

【講義概要・学習目標】

スポーツ科学は、人間そのものをあつかう総合科学です。近年この分野の発展には著しいものがあります。その成果は、たんに「強く・高く・速く」という、トップアスリートだけのものではありません。健常者にとってももちろんのこと、障害者や中高年としても有効なものです。

本講義では、スポーツが生体に与える影響と体力がスポーツの成果に与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について理解を深めてください。

また、国際大会やプロ野球等に関する話題を取り上げ、スポーツの今日の問題についても考えてみる予定です。

【講義計画】

1. 運動と骨格筋・神経系
2. 運動と呼吸・循環器系
3. 運動とエネルギー供給
4. 運動と環境
5. 運動と疲労
6. 運動と栄養
7. トレーニングの基礎理論
8. トレーニングの種類と方法

【成績評価の方法】

レポート（含：コメント）、テストなどにより総合的に評価します。

【教科書】

指定しません。

【参考文献】

授業の進行に合わせて連絡します。

【備考】

<02～05生>
共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
健康・スポーツ学講義－スポーツの歴史 (旧近代体育・スポーツ史)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	高 橋 ひとみ

【講義概要・学習目標】

現代社会において重要な生活文化として取り入れられている「体育・スポーツ」の歴史を、古代エジプト・ギリシャ・ローマまで遡り、政治や経済、社会環境との関連から学習する。

「体育・スポーツ」の歴史を知ることが、「体育・スポーツ」の現在をより理解することにつながり、過去・現在を理解することは、今後の「体育・スポーツ」の進むべき道の教示となると考える。

激動する現代社会の中で、「体育・スポーツ」のあり方を(自己の中で)確立していくことを目的とし、その目的達成のために本授業において学んだことを役立ててほしい。

【講義計画】

- 古代の体育・スポーツ
 - ①エジプト
 - ②ギリシャ
 - ③ローマ
- 中世の体育・スポーツ
- ルネッサンス時代の体育・スポーツ
- 近代の体育・スポーツ
 - ①ドイツ
 - ②イギリス
 - ③スウェーデン
 - ④フランス
 - ⑤アメリカ
 - ⑥日本
- 現代の体育・スポーツ
- オリンピック・パラリンピック・スペシャルオリンピック

【成績評価の方法】

定期試験・小試験・レポートなどにより評価する。

【参考文献】

高橋ひとみ（編著） 「体育・スポーツ史」 西日本法規出版

科 目 名			
健康・スポーツ学講義－体育・スポーツ論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	高 成 厦 松 本 直 也

【講義概要・学習目標】

本講義では、現代社会における体育・スポーツに関する様々な諸問題を取り上げて講義を展開する。学習目標は体育・スポーツの諸問題を素材にし「スポーツとは何か」について深く考察する能力の向上を目指す。また、健康的な生活習慣の確立と日常生活の中にスポーツを取り入れることをねらいとする。

スポーツビデオと新聞資料を多用する。

【講義計画】

- | | |
|---------------|-------------------|
| ①オリエンテーション | ⑧日本のスポーツ間 |
| ②体育とスポーツの違い | ⑨スポーツコーチングとは |
| ③現代社会の特徴とスポーツ | ⑩コーチングの現状と問題 |
| ④プロスポーツ | ⑪科学的アプローチによるコーチング |
| ⑤企業スポーツ | ⑫トレーニング計画と構成 |
| ⑥日本のスポーツ政策 | ⑬スポーツのメンタルトレーニング |
| ⑦諸外国のスポーツ事情 | ⑭モチベーションのコントロール |

【成績評価の方法】

出席、毎回の感想・要約、テスト等を総合的に評価します。

【教科書】

資料を配布する。

【参考文献】

講義でその都度、指示する。

【備考】

<02～05生>

共通教養科目として、J生対象外

「健康・スポーツ学演習」クラス一覧

クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者
01	藤木 泰治	※27	高橋 ひとみ	57	松浦 義昌
02	藤木 泰治	※28	高橋 ひとみ	58	中神 勝
03	松本 直也	29	児玉 公正	59	志水 正俊
※04	高 成廈	31	吉井 泉	60	眞来 省二
06	藤木 泰治	32	松本 直也	66	松本 直也
07	藤木 泰治	33	辻井 義弘	67	前山 直
08	藤木 泰治	34	辻井 義弘	68	中神 勝
※09	高 成廈	35	辻井 義弘	69	児玉 公正
11	末野 幹敏	36	眞来 省二	71	見正 秀基
12	末野 幹敏	41	吉井 泉	72	見正 秀基
13	松本 直也	42	末野 幹敏	73	志水 正俊
※14	今西 俊次	43	浜口 雅行	74	志水 正俊
※15	今西 俊次	44	松浦 義昌	76	中神 勝
16	末野 幹敏	45	前山 直	77	児玉 公正
17	末野 幹敏	46	前山 直	※81	今西 俊次
※18	高 成廈	47	末野 幹敏	※82	今西 俊次
※19	高 成廈	48	眞来 省二	86	前山 直
22	浜口 雅行	53	浜口 雅行	87	前山 直
※23	高 成廈	54	藤木 泰治	91	前山 直
※24	今西 俊次	※55	高橋 ひとみ	92	高・松本
※26	高橋 ひとみ	56	松浦 義昌		

<注意>

※印クラスのみ法学部生、履修可です。他のクラスはできません。

科 目 名			
言語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	大 石 正 晴

【講義概要・学習目標】

言語学は人間の言葉についての学問である。万物の中で人類だけが持っている言語というものの価値は測り知れないほど大きく、言語なくして人類の存在は考えられない。

あらゆる言語は、それぞれ特有の発音体系、統語体系、意味体系を持っている。従って、言語学には基本的な分野として、個々の音声が発話のときに融合するいろいろな法則を分析する音韻論、文法的な文を構成するための語句の正しい配列の法則を研究する統語論、語句やその集合体である文の意味する法則を観察する意味論などがある。

上に述べた言語そのものに内在する言語固有の問題に加えて、「言語使用の問題点と最も効果的な方法は何か」、「人間の言語習得の原理は何か」、「人間の言語と動物の伝達の違いは何か」、「社会と言語はどのように関わっているか」等もまた重要な問題点である。

人間の知的活動のすべてが根源的に言語と密接に結びついていて、人間の生き方にまで影響を与える言語の基本的問題について、できるだけ深い理解と知識を持つことには大きな意義があるであろう。

【講義計画】

主な考察点

1. 言語とは何か
2. 音声、語および統語について
3. 意味について
4. 言語使用——コミュニケーションの効果的な原理・方法について
5. 言語と社会の関係について
6. 言語と心について

【成績評価の方法】

出席率、および、レポートまたは試験による

【教科書】

「入門言語学 改訂版」 Jean Aitchison 著、田中春美 他訳
(金星堂 2730)

【参考文献】

「現代の言語学」(金星堂)、「言語学百科辞典」(大修館書店)、他に適宜紹介する

【備考】

<02~05生>

共通自由科目として、L・LE・LI生対象外

J生は、日本語教員資格科目(随意)として履修

科 目 名			
言語学—言語学 I (旧言語学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	ケビン グレグ Kevin R. Gregg

【講義概要・学習目標】

言語学は、人文学というよりも自然科学、より具体的に言えば心理学の一分野である。言語学は、様々な下位分野を含み様々な現象を説明しようとするが、本授業では、それぞれを全部、少しずつ触れるよりも、むしろ1つの下位分野のみに専念し、より深く理解してもらいたい。本授業のトピックは、人間言語の音韻体系である。つまり、ヒトはどうやって母語を話す(発音する)のか、発音するためにどのような規則に従うのかを研究する音韻論という分野を紹介する。日本語や英語、その他世界の言語の例をいくつか見ながら、ヒトの言語知識(の一部)をどう分析すればよいのかを考え、併せて科学としての言語学における仮説形成や仮説検証の方法も理解していただきたい。

【講義計画】

先ず、音韻規則を理解する必要の背景知識として、音声学の基礎を紹介する：

- ・発音のしかた：音声器官、音の分類
- ・音声記号、表記
- ・音の変異

そしてその基礎知識に基づいて、音の心的な面：

- ・音の心的表示：音素
- ・音韻規則：心的表示と実際の発音のズレを説明する。

【成績評価の方法】

小テストを頻繁に行なう。学期末試験もあるが、それは成績の3割ぐらいに過ぎない。

【教科書】

教科書はないが、その代わりにプリントをたくさん(うんざりさせる程かもしれない)配る。

科 目 名			
現代技術論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	辻 洋一郎

【講義概要・学習目標】

最近では製造業だけでなく、流通、サービス、物流や金融の現場でも「技術」を知らないと社会にでても仕事になりません。しかし、小難しい数式や理屈は工学部出に任せておけばよいのです。具体的な中身ではなく、技術の『考え方』さえ知っておけば、将来、営業や経理・企画で活躍する皆さん方が、技術者に翻弄されることなく、彼らをコントロールできるのです。

この講義では、身近な新製品や新技術を例にあげて『技術の構図』、『技術的なものの見方』や『技術的な考え方』を理解することに力点を置きます。考え方をさえ習得すれば、文科系でも理科系に負けない企画やビジネスチャンスをものにすることも可能です。この講義では、現代技術に対する恐怖心をなくし、技術に親しむことを第一にしています。

【講義計画】

- (1) 経済を支える技術革新
 - (2) 技術の歴史と進化
 - (3) 技術と製品・マーケティング
 - (4) ヒット商品にみる技術
 - (5) さまざまな技術／技能の具体例
 - (6) 技術の進歩／技能の進化
 - (7) 技術の限界と社会
 - (8) 技術を取り巻く要因
- (順序及び回数不同)

【成績評価の方法】

学期末試験の成績、レポート、講義への積極的な参加態度などを総合して評価します。基本的に出席はとりません。

【教科書】

特に指定しません。

【参考文献】

講義中に都度推奨、指示します。

【備考】

<02～04生>

S S・S W・B・L E・L I・J 生は、博物館学芸員課程科目(随意)として履修

科 目 名			
現代思想			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	岩 津 洋 二

【講義概要・学習目標】

私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。爆弾テロを怖がり、地震を怖がり、お化けを怖がり、友人から嫌われるのを怖がる。じつに多くの恐怖が私たちの生活につきまとい、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思いとどまり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定にかくも深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は多くない。

この講義は、哲学のみならず心理学・生理学・民族学・民俗学などの多様な視点から恐怖を解明し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるという実践的な課題を追求する。恐怖というキーワードをとおして、世界と自分自身を再発見する試みといってもよい。

【講義計画】

- I 恐怖とは何か
 - II 恐怖と文化
 - III 恐怖と秩序
 - IV 恐怖への接近
 - V 恐怖からの解放
- (第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す)

【成績評価の方法】

講義への参加度・提出物・テストによる総合的評価

【教科書】

とくになし

【参考文献】

授業中に適宜指示する

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

科 目 名			
現代社会論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	原 田 達

【講義概要・学習目標】

現代日本社会の在りようを考えたい。その際、ふたつの切り口から現代日本社会に迫りたい。その切り口は、「祝祭」と「競争」。

「祝祭」と「競争」は、表面上は無関係に見える。一方は情念の沸騰する社会的場であり、他方は理知で切り抜けてゆく社会空間である。しかし、社会は情念と理知が複雑に絡みながら構成されている。その複雑な絡み合いの解明までは行き着けないが、この相反する二要素を提示することで現代日本社会の現状に迫りたい。

【講義計画】

「祝祭」については「よさこい祭り」と「ジャズ・ストリート」を取り上げる。その成立、その展開、そしてその社会的意義について。それは、合理的に編成された現代社会のその「合理」の裏をかく社会現象でもある。

「競争」については、きみたちが経験した受験競争、きみたちが経験している就職競争、きみたちが経験するであろう昇進競争を素材にして、現代日本社会をつらぬく競争のメカニズムについて解説する。それは、合理的に編成された現代社会のその「合理」が冷酷に顔を出す社会空間である。

このふたつのテーマを解説することで現代社会の二面性を把握できればと思う。

【成績評価の方法】

試験をします。

【教科書】

使用しません。

【参考文献】

その都度指示します。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、SS生対象外

科 目 名			
現代の諸問題と英米文学Ⅰ－異文化と文学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	大 野 裕 之

【講義概要・学習目標】

文学と異文化との関わりについて講義する。

まず英文学の古典を取り上げ、それが異文化とどのようにして関わってきたか、あるいは関わってこなかったかについて読み込んでいく。

とりわけ、19世紀のイギリスの演劇ジャンルであるミュージック・ホールが、植民地においてどのように演じられたかを述べる。

また、広い意味での「異文化」としての<演劇><音楽（ミュージカル）>や<映画>と<文学>との関わりについて詳しく見ていきたい。

授業の一環として、何らかの実地活動（映画作品を見る、観劇など）を課す可能性がある。積極的な受講者と楽しく講義を進めていきたい。

【講義計画】

1. イントロダクション
- 2－4. シェイクスピアと異文化との関わり
- 5－7. 文学と演劇／ミュージカル
8. 文学と映画
- 9－10. ワイルドのアイランド
- 11－12. ウィルキー・コリンズのサスペンス小説の中の外国人
- 13－15. まとめ

【成績評価の方法】

学期末にレポート、及び平常点

【教科書】

『チャップリンの再入門』（大野裕之著、NHK出版）

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
憲法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	松 田 聡 子

【講義概要・学習目標】

憲法の基礎を身近な例から習得することを目標にする。憲法が「最高法規」であり「人権の法」であるとの理解を深めていくことになるが、日本国憲法のほか諸外国の憲法も素材にしていく。講義は統治機構論と人権論とに大別してすすめていく。統治機構論では国民主権と司法制度を、また、人権論では、自己決定権論とその制限を基本的な視座に考察していく。

【講義計画】

1. 近代憲法から現代憲法へ
2. 日本国憲法の成立と特質
3. 国民主権と選挙制度
4. 国民主権と国民投票制度
5. 国民主権と天皇制
6. 国会の地位と権能
7. 議院内閣制
8. 司法制度の原則
9. 司法制度のこれから
10. 人権思想の系譜
11. 新しい人権
12. 人権の享有主体
13. 思想・良心の自由
14. 死刑制度
15. 平等原則
16. 自己決定権
17. 信教の自由
18. 表現の自由
19. 社会権
20. 平和主義
21. 戦後改憲論の系譜

【成績評価の方法】

学期末に行う論述試験で判断

【教科書】

参考文献のほか、とくに用いない

【参考文献】

芦部信義『憲法（第三版）』（岩波書店）、
佐藤幸治『憲法（第三版）』（青林書院）、
渋谷秀樹他『憲法1・2（第二版）』（有斐閣）、
佐藤功『日本国憲法概説（全訂第五版）』（学陽書房）、
粕谷友介ほか『憲法（新版）』（青林書院）

科 目 名			
憲法 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	前 田 徹 生

【講義概要・学習目標】

憲法は、大別すると「基本的人権」と「統治機構」の2分野で構成されている。憲法Iは、「基本的人権」を中心に講義をおこなう。講義は、国家試験の受講生にも有益であるように解釈論を核とし、また、理解を早めるために個別分野ごとに具体的な事件・判例を紹介し、可能な限り憲法訴訟論的アプローチを加味しながら憲法学説の体系的な解説を試みる。さらに、今日もはや憲法理解に不可欠となっている欧米との比較憲法的視点を織り交ぜながらできる限り多角的な視野から考察をしていく。

初年度の法学部の基本科目であり、法学学習の体系的理解を保障する意味もあり、講義においては、座席は指定され、出席は、毎回とる。ここで、脱落することのないように、1年生諸君の頑張りを期待したい。

【講義計画】

- 1) 日本国憲法成立史
- 2) 基本的人権の享有主体
- 3) 基本的人権の私人間効力
- 4) 特別な法律関係における人権
- 5) 基本的人権と公共の福祉
- 6) 法の下での平等
- 7) 個人の尊重と幸福追求権
- 8) プライバシーの権利
- 9) 自己決定権
- 10) 思想・良心の自由
- 11) 信教の自由・政教分離の原則
- 12) 学問の自由
- 13) 表現の自由
- 14) 集会・結社の自由
- 15) 職業選択の自由
- 16) 財産権の保障
- 17) 被疑者・被告人の権利
- 18) 生存権
- 19) 教育を受ける権利
- 20) 労働基本権
- 21) 国務請求権
- 22) 参政権

【成績評価の方法】

2/3以上の出席を単位認定の最低条件とする。成績評価は、出席日数および時々に行う小テスト並ぶに期末に行われる定期試験を総合して判断する。

【教科書】

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第三版）』岩波書店

【参考文献】

佐藤功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房
樋口陽一『憲法』（改訂版）創文社
佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院
野中・中村・高橋・高見『憲法I』（第三版）有斐閣
粕谷友介・向井久了・矢島基美編『青林法学双書 憲法』（第二版）青林書院
辻村みよ子『憲法（第2版）』日本評論社

科 目 名			
憲法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	松 田 聰 子

【講義概要・学習目標】

憲法Ⅱでは、いわゆる統治機構を学ぶ。憲法は人権保障の法であり、そのための統治構造を定めた法であることは、憲法Ⅰですでに学んでいる。憲法Ⅱでは、日本国憲法における国民主権、権力分立、地方自治、財政、平和主義に関する原理と解釈の習得を目標とする。できるだけ具体的な事件や判例を通して体系的な理解を深めていく。また、わが国の憲法解釈に不可欠な比較憲法からのアプローチも試みる。なお、国家試験の問題などにも適宜ふれていく予定である。

【講義計画】

1. 憲法と立憲主義
2. 法の支配と法治主義
3. 国民主権と人民主権
4. 国民主権と選挙制度
5. 国民主権と国民投票制度
6. 国民主権と天皇制
7. 国会の地位と権能
8. 議院内閣制
9. 衆議院の解散
10. 司法権の意味と範囲
11. 司法権の限界
12. 違憲立法審査制の性格
13. 違憲立法審査制の限界
14. 司法制度の課題
15. 地方自治制度
16. 財政制度
17. 憲法保障
18. 平和主義
19. 戦後改憲論の系譜

【成績評価の方法】

学期末に行う論述試験で判断

【教科書】

芦部信喜『憲法 第三版』岩波書店

【参考文献】

佐藤幸治『憲法（第三版）』（青林書院）、渋谷秀樹他『憲法2（第二版）』（有斐閣）、佐藤功『日本国憲法概説（全訂第五版）』（学陽書房）、粕谷友介ほか『憲法（新版）』（青林書院）

科 目 名			
憲法入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	前 田 徹 生

【講義概要・学習目標】

憲法入門は、憲法の学習を容易にするため、「具体的から抽象へ」、「素材（基本事例）の習得から理論的整理へ」を基本に、その前段階の憲法学習の基本となる素材（基本事例）の習得に力点が置かれる。それにより、以後の解釈学を中心とした学習での抽象的な概念整理に必要な素材（基本事例）を提供する。具体的には、憲法学での興味深い判例や基本概念の理解に不可欠な具体的事例の紹介と解説を中心とする。「生きた法」の現実を具体的に学習し、法律学の学問としての面白さを学び、法学学習への意欲を高めることが企図されている。

初年度における法学学習の体系的理解を促すため、毎回出席をとる。

【講義計画】

- 1) 憲法ガイダンス
- 2) 法の種類・分類、法の解釈
- 3) 「三菱樹脂事件」「エホバの証人輸血拒否事件」
- 4) 「尊属殺重罰規定違憲判決」「非嫡出子の法定相続差別事件」
- 5) 「麹町中学内申書事件」「津地鎮祭訴訟」「愛媛玉串料訴訟」
- 6) 「チャタレイ事件」「北方ジャーナル事件」「徳島市公安条例事件」
- 7) 「小売市場事件」「薬事法違憲判決」「森林法共有林事件」
- 8) 「朝日訴訟」「堀木訴訟」「旭川学テ事件」
- 9) 「全通中郵事件」「東京都教祖事件」「全農林警職法事件」
- 9) 「砂川事件」「恵庭事件」「長沼事件」
- 10) 「警察予備隊違憲訴訟」「板まんだら事件」
- 11) 「砂川事件」「苫米地事件」「警察法改正無効事件」

【成績評価の方法】

2／3以上の出席を単位認定の基本条件とする。
出席日数および時々的小テスト並びに定期試験の結果を総合して成績評価の判断をおこなう。

【教科書】

別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ（第4版）』有斐閣
別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅱ（第4版）』有斐閣

【参考文献】

芦部信喜『憲法判例を読む』岩波書店
樋口陽一・山内敏弘・辻村みよ子『憲法判例を読みなおす』日本評論社
棟居・赤坂・松井・笹川・常本・市川『基本的人権の事件簿』有斐閣

科 目 名			
語彙・意味論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	藤 原 健

【講義概要・学習目標】

ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。

この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。

【講義計画】

1. 単語と語彙
 - 1) 単語とは
 - 2) 語彙とは
 - 3) 語形
2. 語の数
 - 1) 基礎語彙と基本語彙
 - 2) 使用語彙と理解語彙
 - 3) 語数とカバー率
3. 語の種類
4. 語構成と造語法
 - 1) 語の構成成分
 - 2) 造語法
 - 3) 造語に伴う音声変化
5. 語の意味
6. 意味に関する問題点
7. 語彙教育のポイント

【成績評価の方法】

定期試験（半期科目であるので、前期1回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】

森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』（おうふう）

【参考文献】

浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック（5）語彙』（国際交流基金／凡人社）

【備考】

<02～04生>

E・S S・S W・B・J 生対象は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
公共経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	竹 歳 一 紀

【講義概要・学習目標】

公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論による分析することである。すなわち、公共部門（政府）の介入が必要となるのはどのような問題に對してか、また、適切な介入（政策）とはどのようなものか、といったことについて明らかにすることが重要な課題となる。

この講義では、（1）公共財と公共投資、（2）外部性と環境問題、（3）所得分配と社会保障、といったテーマをとりあげる予定である。

公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論IA－1を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。

【講義計画】

1. 公共経済学の対象
2. 厚生経済学の基礎
3. 公共財と公共投資
4. 外部性と環境問題
5. 所得分配と社会保障

【成績評価の方法】

中間試験および学期末試験の成績による。
詳細は初回に説明する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

講義中に指示する。

科 目 名			
工業簿記 (旧簿記Ⅱ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	河 野 勉

【講義概要・学習目標】

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心につとめて実践的に授業を進めたい。

原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【講義計画】

1. 工業簿記の構造
2. 材料・労務費・経費の計算
3. 製造間接費計算
4. 部門費計算
5. 個別原価計算
6. 総合原価計算
7. 標準原価計算
8. 直接原価計算
9. 工場会計の独立

【成績評価の方法】

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

【教科書】

小林哲夫・伊藤 博（共著）「最新工業簿記増補改訂版」（実教出版）

岡本 清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記ワークブック 2級工業簿記」（中央経済社）

【参考文献】

岡本 清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記講義 2級工業簿記」（中央経済社）

科 目 名			
公的扶助論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	瀧 澤 仁 唱

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
- 2 生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。
- 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方について理解させる。

【講義計画】

- 1 現代社会と公的扶助
 - 1) 公的扶助理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 低所得対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
 - 1) 目的
 - 2) 基本原理
 - 3) 保護の原則
 - 4) 保護の種類と内容
 - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
 - 6) 保護施設の種類
 - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連帯のあり方

【成績評価の方法】

論述式筆記試験

【教科書】

法改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、SW生対象外

科 目 名			
国際会計論〔2〕 (旧国際会計論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	柴 理梨亜

【講義概要・学習目標】

国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では会計もその影響に対応していかなければならない。1973年に日本も参加して発足した国際会計基準委員会が、現代のニーズに対応するためにその組織改革を実施した。そして、グローバル・スタンダードを目指す国際財務報告基準は世界中で認識されるようになった。

日本でも民間の会計基準設定機関「企業会計基準委員会（ASB）」が設置され、2005年から国際財務報告基準との調和化または統合化に向けた協議が開始される。

本講義では、グローバル・スタンダードとなった国際財務報告基準とその歩みについて学ぶことに加えて、実際に企業が発行している英文財務諸表を利用しながら多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになることも目的である。

【講義計画】

1. 国際会計
2. 国際会計基準委員会とその改革
3. I O S C O と会計基準のグローバル・スタンダード
4. 国際財務報告基準がめざすもの
5. 基準ができるまでの流れ
6. 主要な国際財務報告基準
7. 日本の基準と比較して
8. 英文財務諸表を読む

【成績評価の方法】

出席、平常点とテストの結果を総合的に評価する。

【教科書】

毎回授業中にプリントを配布

【参考文献】

中央青山監査法人（編）「国際会計基準なるほどQ & A 知っておきたい102のポイント」中央経済社

徳賀芳弘（著）「国際会計論相違と調和」中央経済社

飯田信夫（著）国際会計教育協会（編）「国際財務報告基準（IFRS）入門日本基準との違いをみる」財経詳報社

西川郁生（監修）JUSCPA国際会計基準専門部会（著）「よくわかる国際会計基準」IAS第2版、中央経済社

科 目 名			
国際関係論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	松 村 昌 廣

【講義概要・学習目標】

注意！！

この講義は「原論」のコースです。したがって、極めて哲学的、理論的、理屈詰めの内容となります。社会科学の基礎的な素養がないと、ついてこれない可能性が強いです。動機付けの強い学生向きです。「国際」という名前に迷わされないように留意してください。楽しく入門的な内容を希望する学生は、ビデオなどを多用する「国際政治事情研究」の方を履修することをすすめます。

国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握する。

【講義計画】

1 導入

- 1) 国際関係論と国際関係における日本
- 2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解
- 3) 社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論
 - (1) 現実主義 VS 理想主義
 - (2) 伝統主義 VS 科学主義
 - (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義
 - (4) 講師の見解

2 総論

- 1) 基本的捉え方
 - (1) 現実主義 (2) 多元主義 (3) グローバリズム
 - (4) 講師の見解
- 2) 分析のレベル
 - (1) 政策決定システム (2) 国家システム
 - (3) 国際システム (4) 講師の見解

3 各論

- 1) 軍事的側面
 - (1) 安全保障 (2) 紛争 (3) 講師の見解
- 2) 経済的側面（貿易・金融・投資・技術・開発）
 - (1) 市場機能中心主義 (2) 国家機能中心主義
 - (3) 資本形成中心主義 (4) 講師の見解
- 3) 秩序づけのための組織化側面
 - (1) 国際法 (2) 国際機構 (3) 国際レジーム

4 結論

- 1) 冷戦後の国際構造
- 2) 日本の国際行動とその将来

【成績評価の方法】

- | | |
|------------|------------|
| 1) 出席・受講状態 | 50% |
| 2) 前期試験 | 20% |
| 3) 後期試験 | 30% |
| 4) 冬休みレポート | 20%（希望者のみ） |

*冬休みレポート

参考文献3冊を読み、各著者の（1）国際政治観（2）国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しない。

* 評 価 の 目 安

80～100%・・・A
70～79%・・・B
60～69%・・・C

【教科書】

P. ビオティ&M. カピ『国際関係論』（彩流社）
ロバート・ギルピン『世界システムの政治経済学』（東洋経済新報社）

但し、後者については絶版となっているので、必要箇所をコピーのうえ配付する。前者については、各人、確保すること。

【参考文献】

E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫)
モーゲンソー『国際政治』(福村出版)
シューマン『国際政治』(東大出版会)

【備考】

<02・03生>
共通自由科目としてJ生対象外

か
行

科 目 名			
国際機構論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	軽 部 恵 子

【講義概要・学習目標】

この講義では国際機構の成り立ちと仕組みについて、国連を中心に勉強します。武力紛争、大量破壊兵器の拡散、貧困、環境破壊など世界共通の問題を解決するのに、国連を中心とした国際協力は欠かせません。国連について知りたい人、国際問題に強くなりたい人など、意欲的な学生を待っています。

国際機構論では、大学生として誰が必要な世界史の基礎的知識を確認しつつ講義を進めます。秋学期に国際法を履修する人は、国際機構論から履修するよう強くすすめます。両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です。

国際機構に関連する重大ニュースや事件は、講義予定外でも随時取り上げます。また、ドキュメンタリー・フィルムや国連ホームページ(HP)等も教材として頻繁に使用します。

※ 履修登録する前に「国際法・国際機構論を履修する皆さんへ」および「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。

【講義計画】

1. 国際機構とは何か:「国際」の意味、国際機構の定義
2. 国際機構の歴史:三十年戦争、フランス革命とナポレオン戦争、ウィーン会議、国際行政連合、赤十字国際委員会、ハーグ平和会議
3. 第一次世界大戦と国際連盟の設立:ウィルソン大統領の「14カ条」、パリ講和会議、国際連盟規約 他
4. 第二次世界大戦と国際連合の設立:ダンバートン・オークス会議、ヤルタ会談、サンフランシスコ会議 他
5. 国連の目的と仕組み:国連憲章、総会、安保理、経済社会理事会、信託統治理事会、事務局、国際司法裁判所、専門機関、NGO、国連HP実習
6. 国際の平和と安全の維持:紛争の平和的解決、安保理と拒否権、幻の「国連軍」、平和維持活動、軍縮 他
7. 経済・社会・人権・人道問題への取り組み

【成績評価の方法】

学期末試験(2005年7月)

※ 講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くため、いわゆる「出席点」にはなりません。

【教科書】

- ・水村光男監修『この「戦い」が世界史を変えた』青春出版社 2003年
- ・国連広報局編『国際連合の基礎知識』増補改訂第6版 世界の動き社 2002年

【参考文献】

- ※ 国際法のページも見てください。
- ・国連広報局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号:国連半世紀の軌跡』中央大学出版部 1997年
 - ・横田洋三編『国連による平和と安全の維持:解説と資料』国際書院 2000年
 - ・臼井久和、馬橋憲男編『新しい国連』有信堂 2004年
 - ・川鍋道子『国際機関資料検索ガイド』東信堂 2003年
 - ・高井登『国連PKOと平和協力法』真正書籍 1995年
 - ・松井芳郎『湾岸戦争と国際連合』日本評論社 1993年
 - ・最上俊樹『いま平和とは』日本放送協会 2004年
 - ・吉田康彦『国連改革』集英社 2003年
 - ・吉田康彦『図解国連のしくみ』日本実業出版社 1995年

【備考】

<02・03生>
共通自由科目として、J生対象外

科 目 名			
国際経営論 [2] (旧経営・商学特講－国際経営論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	小 島 孝治郎

【講義概要・学習目標】

地球規模の視野が要求される現在のグローバル経営を理解するには、めまぐるしく変化する世界情勢と企業経営の実態を見なければならぬ。

教科書で分析の切口を把握し、他方、日常の新聞・雑誌・ホームページ等から実際に企業が取っている戦略を理解し、これらをケース・スタディとして分析することによって、「国際経営論」を構成する。

【講義計画】

[1] 国際経営へのイントロダクション

1. グローカリゼーションと国際経営
2. 国際ビジネスの実態：貿易と投資

[2] 国際ビジネスの環境

3. 国際ビジネスのリスク・マネジメント
4. 異文化経営 / IT革命とネットワーク経営
5. コーポレート・ガバナンスと企業倫理
6. 国際経営の歴史－英・米・独の多国籍企業

[3] 国際経営戦略

7. グローバル競争の経営戦略
8. 国際マーケティング
9. 海外生産

[4] 国際経営管理

10. 組織管理
11. 人事管理
12. 財務管理

[5] まとめ

13. 日本型国際経営と世界の多国籍企業経営
14. 総括

【成績評価の方法】

- ・期末試験で評価する。
- ・いわゆる資格試験ではないので、講義を聴いて理解したかを試す試験になる。教室に来て私語をし、寝てばかりいる人に〈出席点〉を渡す意味はないので、講義の中で適宜試験のヒントやキーワードを出す。答案にそれらを反映されたい。
- (出席も毎回は取らないが、時々取ることも考慮中)

【教科書】

- ・根本孝他編『国際経営を学ぶ人のために』世界思想社 (2001年12月初版 1,900+tax)

【参考文献】

- 〈世界情勢の一般的な把握を目的とするもの〉
- ・毎日の「日本経済新聞」
- ・ジェトロ監修・世界経済情報サービス制作「THE WORLD 2004」 (ジェトロ 2004年5月 1200+tax。毎年発行)
- ・総務省統計局「日本の統計」、「世界の統計」 (日本統計協会 2004年3月 各1760+tax。毎年発行) など。
- ※ その他は講義で示す。

科 目 名			
国際経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	三 邊 信 夫

【講義概要・学習目標】

この講義では、国際経済学の基礎理論を解説する。国際経済学は、国際間における取引 (trade) つまり貿易に関する事柄を研究対象としている。取引である限り最低2つの国 (または2人) および2つの財貨の存在が必要である。貿易は両国間の効用関数の差異 (つまり両国民の間の趣好の差異) があれば行われるが、その財貨が生産物である場合、生産関数が問題となる。財貨を生産する技術や生産要素、つまり労働や資本の要素賦存量の国際的差異を考えに入れなくてはならない。価値または価格という場合も生産物間の交換比率だけではなく、生産要素間の交換比率つまり要素価値比率 (または分配率) および両者の間の関係が考慮されねばならない。さらにこれらの基礎的条件が変化した場合、具体的には、技術進歩や資本蓄積、労働人口の増加が行われたとき、交易条件やその国の生活水準に及ぼす影響なども分析される。

【講義計画】

1. 交換経済、オファー曲線、貿易利益
2. 均衡の安定性、マーシャル・ラーナーの安定条件
3. リカード比較生産費説と賃金決定
4. 商品交易条件と要素交易条
5. 生産論、等生産量曲線と生産可能曲線
6. 貿易方向の決定、ヘクシャー・オリーオン理論、国の規模、技術進歩
7. 要素価格均等化、リプチンスキイ効果、ストルパー・サムエルソン理論
8. 国際貿易における双対関係
9. 比較生産費基準と所得弾力性基準
10. 経済成長と交易条件
交換経済、オファー曲線、貿易利益

【成績評価の方法】

試験、出席

【教科書】

三邊信夫 (著)『国際貿易と経済成長理論』(大阪市立大学経済学会)